

社会基盤工学専攻

<前期課程>

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期等
基礎科目	セミナー 講義 実験・演習	社会基盤工学のフロンティア	社会基盤工学専攻各教員	2	1年前期(必修)
		社会基盤工学総合プロジェクトA	社会基盤工学専攻各教員	2	1年前期(必修)
		社会基盤工学総合プロジェクトB	社会基盤工学専攻各教員	2	1年後期(必修)
		社会基盤工学総合プロジェクトC	社会基盤工学専攻各教員	2	2年前期(選択)
	セミナー 講義 実験・演習	構造工学セミナー-1A	伊藤 義人 教授, 葛 漢彬 准教授, 葛西 昭 講師	2	1年前期
		構造工学セミナー-1B	伊藤 義人 教授, 葛 漢彬 准教授, 葛西 昭 講師	2	1年後期
		構造工学セミナー-1C	伊藤 義人 教授, 葛 漢彬 准教授, 葛西 昭 講師	2	2年前期
		構造工学セミナー-1D	伊藤 義人 教授, 葛 漢彬 准教授, 葛西 昭 講師	2	2年後期
		材料・形態学セミナー-1A	中村 光 教授, 國枝 稔 准教授	2	1年前期
		材料・形態学セミナー-1B	中村 光 教授, 國枝 稔 准教授	2	1年後期
主攻科目	主分野科目	材料・形態学セミナー-1C	中村 光 教授, 國枝 稔 准教授	2	2年前期
		材料・形態学セミナー-1D	中村 光 教授, 國枝 稔 准教授	2	2年後期
		海岸・海洋工学セミナー-1A	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授	2	1年前期
		海岸・海洋工学セミナー-1B	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授	2	1年後期
		海岸・海洋工学セミナー-1C	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授	2	2年前期
		海岸・海洋工学セミナー-1D	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授	2	2年後期
		流域保全学セミナー-1A	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	1年前期
		流域保全学セミナー-1B	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	1年後期
		流域保全学セミナー-1C	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	2年前期
		流域保全学セミナー-1D	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	2年後期
主攻科目	講義	地盤環境学セミナー-1A	淺岡 顯 教授, 中野 正樹 教授	2	1年前期
		地盤環境学セミナー-1B	淺岡 顯 教授, 中野 正樹 教授	2	1年後期
		地盤環境学セミナー-1C	淺岡 顯 教授, 中野 正樹 教授	2	2年前期
		地盤環境学セミナー-1D	淺岡 顯 教授, 中野 正樹 教授	2	2年後期
		国土防災安全工学セミナー-1A	野田 利弘 准教授	2	1年前期
		国土防災安全工学セミナー-1B	野田 利弘 准教授	2	1年後期
		国土防災安全工学セミナー-1C	野田 利弘 准教授	2	2年前期
		国土防災安全工学セミナー-1D	野田 利弘 准教授	2	2年後期
		地図環境保全学セミナー-1A	片山 新太 教授	2	1年前期
		地図環境保全学セミナー-1B	片山 新太 教授	2	1年後期
主攻科目	講義	地図環境保全学セミナー-1C	片山 新太 教授	2	2年前期
		地図環境保全学セミナー-1D	片山 新太 教授	2	2年後期
		社会基盤計画学セミナー-1A	中村 英樹 准教授, 山本 俊行 准教授	2	1年前期
		社会基盤計画学セミナー-1B	中村 英樹 准教授, 山本 俊行 准教授	2	1年後期
		社会基盤計画学セミナー-1C	中村 英樹 准教授, 山本 俊行 准教授	2	2年前期
		社会基盤計画学セミナー-1D	中村 英樹 准教授, 山本 俊行 准教授	2	2年後期
		社会基盤設計学セミナー-1A	北川 徹哉 准教授	2	1年前期
		社会基盤設計学セミナー-1B	北川 徹哉 准教授	2	1年後期
		社会基盤設計学セミナー-1C	北川 徹哉 准教授	2	2年前期
		社会基盤設計学セミナー-1D	北川 徹哉 准教授	2	2年後期
主攻科目	講義	社会基盤維持管理学セミナー-1A	館石 和雄 教授, 山田 健太郎 教授	2	1年前期
		社会基盤維持管理学セミナー-1B	館石 和雄 教授, 山田 健太郎 教授	2	1年後期
		社会基盤維持管理学セミナー-1C	館石 和雄 教授, 山田 健太郎 教授	2	2年前期
		社会基盤維持管理学セミナー-1D	館石 和雄 教授, 山田 健太郎 教授	2	2年後期
		連続体力学特論	中野 正樹 教授, 野田 利弘 准教授	2	1年前期
		微偏解析特論	山本 俊行 准教授, 野田 利弘 准教授, 戸田 祐嗣 准教授, 葛西 昭 講師	2	1年前期
		土木地質学特論	鈴木 康弘 教授	2	2年前期
		風工学特論	北川 徹哉 准教授	2	1年前期
		土水環境保全学特論	片山 新太 教授	2	1年前期
		複合材料学特論	中村 光 教授	2	1年前期
主攻科目	講義	コンクリート構造学特論	國枝 稔 准教授	2	1年後期
		構造力学特論	葛 漢彬 准教授	2	1年後期
		固体力学特論	伊藤 義人 教授, 葛西 昭 講師	2	1年前期
		海洋力学特論	川崎 浩司 准教授	2	1年前期
		海工学特論	水谷 法美 教授	2	1年後期
		流域圏管理学特論	辻本 哲郎 教授	2	2年前期
		河川計画・河道設計学特論	戸田 祐嗣 准教授	2	1年後期

科目区分		授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期等				
主 專 攻 科 目	主 分 野 科 目	講 義	地盤工学特論	淺岡 顕 教授	2	1年後期				
			地盤力学特論	中野 正樹 教授	2	1年前期				
			耐震工学特論	野田 利弘 准教授	2	2年前期				
			地盤動力学特論	野田 利弘 准教授, 非常勤講師	2	1年後期				
			交通工学特論	中村 英樹 准教授	2	1年前期				
			社会基盤計画学特論	森川 高行 教授, 山本 俊行 准教授	2	1年後期				
			都市計画特論	加藤 博和 准教授	2	1年前期				
			基礎情報学特論	伊藤 義人 教授	2	1年後期				
			都市基盤維持管理学特論	館石 和雄 教授, 山田 健太郎 教授	2	1年後期				
			途上国開発特論Ⅰ	各教員(社会基盤)	2	1年後期				
		演 習	途上国開発特論Ⅱ	各教員(社会基盤)	2	2年後期				
	総合工学科目		固体力学演習	伊藤 義人 教授, 葛西 昭 講師, 北根 安雄 助教	1	1年後期				
			複合材料学演習	中村 光 教授, 國枝 稔 准教授	1	1年後期				
			海工学演習	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授, 李 光浩 助教	1	1年後期				
			流れ・地形解析学演習	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐詞 准教授, 田代 香 助教	1	1年後期				
			地盤解析学演習	浅岡 顕 教授, 中野 正樹 教授	1	1年後期				
			地盤動力学演習	野田 利弘 准教授, 山田 英司 助教, 中井 健太郎 助教	1	1年後期				
			社会基盤計画学演習	中村 英樹 准教授, 山本 俊行 准教授, 三輪 富生 助教	1	1年前期				
			基盤情報学特論演習	伊藤 義人 教授, 北川 徹哉 准教授, 北根 安雄 助教	1	1年前期				
			社会基盤維持管理学演習	館石 和雄 教授, 山田 健太郎 教授	1	1年後期				
			土水環境保全学演習	片山 新太 教授, 井上 康 助教	1	1年後期				
副専攻科目		セミナー 講義 実験・演習	当該専攻以外の工学研究科専攻で開講されている授業科目のうち、指導教員並びに専攻長が認めた科目							
			高度総合工学創造実験	松村 年郎 教授	3	1年前期接続、2年前期接続				
			研究インターンシップ	松村 年郎 教授	2~4	1年前期接続、2年前期接続				
			最先端理工学特論	田渕 雅夫 准教授	1	1年前期接続、2年前期接続				
			最先端理工学実験	山根 隆 教授, 田渕 雅夫 准教授	1	1年前期接続、2年前期接続				
			コミュニケーション学	古谷 札子 准教授	1	1年後期、2年後期				
			ベンチャービジネス特論Ⅰ	田渕 雅夫 准教授	2	1年前期、2年前期				
			ベンチャービジネス特論Ⅱ	田渕 雅夫 准教授, 枝川 明敏 客員教授	2	1年後期、2年後期				
			学外実習A	各教員(社会基盤)	1	1年前期接続、2年前期接続				
他研究科等科目			当該専攻とは異なる分野に関する学部科目、あるいは他研究科、他大学院で開講されている授業科目で指導教員並びに専攻長が認めた科目							
研究指導										
履修方法および研究指導										
<p>1. 以下の一～三の各項を満たし、合計30単位以上</p> <p>一 主専攻科目：</p> <ul style="list-style-type: none"> イ 基礎科目 6 単位以上 ロ 主分野科目の中から、セミナー 8 単位、講義 6 単位、実験・演習 1 単位を含む 16 単位以上 <p>二 副専攻科目と他研究科等科目を合わせて2単位以上</p> <p>三 総合工学科目は 4 単位までを修了要件として認め、4 単位を超えた分は随意科目の単位として扱う</p> <p>2. 研究指導については、専攻において定めるところにより、指導教員の指示によること</p>										

社会基盤工学専攻
 <後期課程>

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期等
主 専 攻 科 目	構造工学セミナー	構造工学セミナー-2A	伊藤 義人 教授, 葛 漢彬 准教授, 葛 西 昭 講師	2	1年前期
		構造工学セミナー-2B	伊藤 義人 教授, 葛 漢彬 准教授, 葛 西 昭 講師	2	1年後期
		構造工学セミナー-2C	伊藤 義人 教授, 葛 漢彬 准教授, 葛 西 昭 講師	2	2年前期
	構造工学セミナー	構造工学セミナー-2D	伊藤 義人 教授, 葛 漢彬 准教授, 葛 西 昭 講師	2	2年後期
		構造工学セミナー-2E	伊藤 義人 教授, 葛 漢彬 准教授, 葛 西 昭 講師	2	3年前期
	材料・形態学セミナー	材料・形態学セミナー-2A	中村 光 教授, 国枝 稔 准教授	2	1年前期
		材料・形態学セミナー-2B	中村 光 教授, 国枝 稔 准教授	2	1年後期
		材料・形態学セミナー-2C	中村 光 教授, 国枝 稔 准教授	2	2年前期
		材料・形態学セミナー-2D	中村 光 教授, 国枝 稔 准教授	2	2年後期
		材料・形態学セミナー-2E	中村 光 教授, 国枝 稔 准教授	2	3年前期
	海岸・海洋工学セミナー	海岸・海洋工学セミナー-2A	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授	2	1年前期
		海岸・海洋工学セミナー-2B	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授	2	1年後期
		海岸・海洋工学セミナー-2C	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授	2	2年前期
		海岸・海洋工学セミナー-2D	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授	2	2年後期
		海岸・海洋工学セミナー-2E	水谷 法美 教授, 川崎 浩司 准教授	2	3年前期
	流域保全学セミナー	流域保全学セミナー-2A	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	1年前期
		流域保全学セミナー-2B	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	1年後期
		流域保全学セミナー-2C	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	2年前期
		流域保全学セミナー-2D	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	2年後期
		流域保全学セミナー-2E	辻本 哲郎 教授, 戸田 祐嗣 准教授	2	3年前期
	地盤環境学セミナー	地盤環境学セミナー-2A	浅岡 順 教授, 中野 正樹 教授	2	1年前期
		地盤環境学セミナー-2B	浅岡 順 教授, 中野 正樹 教授	2	1年後期
		地盤環境学セミナー-2C	浅岡 順 教授, 中野 正樹 教授	2	2年前期
		地盤環境学セミナー-2D	浅岡 順 教授, 中野 正樹 教授	2	2年後期
		地盤環境学セミナー-2E	浅岡 順 教授, 中野 正樹 教授	2	3年前期
	国土防災安全工学セミナー	国土防災安全工学セミナー-2A	野田 利弘 准教授	2	1年前期
		国土防災安全工学セミナー-2B	野田 利弘 准教授	2	1年後期
		国土防災安全工学セミナー-2C	野田 利弘 准教授	2	2年前期
		国土防災安全工学セミナー-2D	野田 利弘 准教授	2	2年後期
		国土防災安全工学セミナー-2E	野田 利弘 准教授	2	3年前期
	地図環境保全学セミナー	地図環境保全学セミナー-2A	片山 新太 教授	2	1年前期
		地図環境保全学セミナー-2B	片山 新太 教授	2	1年後期
		地図環境保全学セミナー-2C	片山 新太 教授	2	2年前期
		地図環境保全学セミナー-2D	片山 新太 教授	2	2年後期
		地図環境保全学セミナー-2E	片山 新太 教授	2	3年前期
	社会基盤計画学セミナー	社会基盤計画学セミナー-2A	中村 英樹 准教授, 山本 俊行 准教授	2	1年前期
		社会基盤計画学セミナー-2B	中村 英樹 准教授, 山本 俊行 准教授	2	1年後期
		社会基盤計画学セミナー-2C	中村 英樹 准教授, 山本 俊行 准教授	2	2年前期
		社会基盤計画学セミナー-2D	中村 英樹 准教授, 山本 俊行 准教授	2	2年後期
		社会基盤計画学セミナー-2E	中村 英樹 准教授, 山本 俊行 准教授	2	3年前期
	社会基盤設計学セミナー	社会基盤設計学セミナー-2A	北川 徹哉 准教授	2	1年前期
		社会基盤設計学セミナー-2B	北川 徹哉 准教授	2	1年後期
		社会基盤設計学セミナー-2C	北川 徹哉 准教授	2	2年前期
		社会基盤設計学セミナー-2D	北川 徹哉 准教授	2	2年後期
		社会基盤設計学セミナー-2E	北川 徹哉 准教授	2	3年前期
	社会基盤維持管理学セミナー	社会基盤維持管理学セミナー-2A	館石 和雄 教授, 山田 健太郎 教授	2	1年前期
		社会基盤維持管理学セミナー-2B	館石 和雄 教授, 山田 健太郎 教授	2	1年後期
		社会基盤維持管理学セミナー-2C	館石 和雄 教授, 山田 健太郎 教授	2	2年前期
		社会基盤維持管理学セミナー-2D	館石 和雄 教授, 山田 健太郎 教授	2	2年後期
		社会基盤維持管理学セミナー-2E	館石 和雄 教授, 山田 健太郎 教授	2	3年前期
副専攻科目	セミナー 講義 実験・演習	当該専攻以外の工学研究科専攻で開講されている授業科目のうち、指導教員並びに専攻長が認めた科目			

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期等				
総合工学科目		実験指導体験実習1	松村 年郎 教授	1	1年前期後期 2年前期後期				
		実験指導体験実習2	山根 隆 教授, 田淵 雅夫 准教授	1	1年前期後期 2年前期後期				
他研究科等科目		当該専攻とは異なる分野に関する学部科目、あるいは他研究科、他大学院で開講されている授業科目で指導教員並びに専攻長が認めた科目							
研究指導									
履修方法及び研究指導									
<p>1. 上記の授業科目及び前期課程の授業科目（既修のものを除く）の中から8単位以上 ただし、上表の主専攻科目セミナーの中から4単位以上</p> <p>2. 研究指導については、専攻において定めるところにより、指導教員の指示によること</p>									

6. 社会基盤工学専攻 社会基盤工学分野

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>社会基盤工学のフロンティア (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>教員</p>	<p>前期課程 主専攻科目 講義</p> <p>社会基盤工学分野 1年前期</p> <p>各教員 (社会基盤)</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>社会基盤工学総合プロジェクトA (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>教員</p>	<p>前期課程 主専攻科目 実験及び演習</p> <p>社会基盤工学総合プロジェクトA (2 単位)</p> <p>社会基盤工学分野 1年前期</p> <p>各教員 (社会基盤)</p>
<hr/>			
備考			
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>本講義では、主として社会基盤工学専攻の教員が現在取り組んでいる研究、プロジェクト、あるいはその領域で問題になっている事柄・事例の紹介を行う。それによって、現在、社会基盤工学に関する研究の最前線を学び、それらを総合した社会基盤工学の枠組みを自らの専門範囲を超えて各自が考える。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>特になし</p> <p>●授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 構造力学分野の最前線 3. 材料工学分野の最前線 4. 海岸工学分野の最前線 5. 河川工学分野の最前線 6. 地盤工学分野の最前線 7. 都市計画・交通計画分野の最前線 8. 衛生工学・環境工学分野の最前線 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポート</p>			
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>第一線で活躍されている学外講師からの講義を通して、領域横断的な研究分野やその諸問題に可能な限り接するとともに、その分野の諸問題を自ら主体性を持って考え、そして解決する能力を高めることを目的とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>社会基盤工学フロンティア</p> <p>●授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 7名の外部講師からの講義・講演 3. (講演各回について) 学生を主体とした質疑応答 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポートおよび口頭発表</p>			

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>社会基盤工学総合プロジェクトB (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>教員</p>	<p>前期課程 主専攻科目 実験及び演習</p> <p>社会基盤工学分野 1年後期</p> <p>各教員 (社会基盤)</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>社会基盤工学総合プロジェクトC (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>教員</p>	<p>前期課程 主専攻科目 実験及び演習</p> <p>社会基盤工学総合プロジェクトC (2 単位)</p> <p>社会基盤工学分野 2年前期</p> <p>各教員 (社会基盤)</p>
<hr/>			
備考			
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>社会基盤工学に関する特定のテーマを設定し、これに関して一連の発表、討議を通して、最終的には、講義受講者全員で一つのレポートを纏め上げることを課題とする。最終的な成果のみならず、課題のしづらごみ、それにに関する発表、討議、そしてそれをまとめていく一連の作業自体が講義の目的のものである。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>社会基盤工学フロンティア、社会基盤工学総合プロジェクトA</p> <p>●授業内容</p> <p>チームごとに社会基盤工学にかかる種々の解決問題について講じ、問題提起を行うとともにその対策について討議する。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポートおよび口頭発表</p>			
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>第一線で活躍されている学外講師からの講義を通して、領域横断的な研究分野やその諸問題に可能な限り接するとともに、その分野の諸問題を自ら主体性を持って考え、そして解決する能力を高めることを目的とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>社会基盤工学フロンティア、社会基盤工学総合プロジェクトA、B</p> <p>●授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 7名の外部講師からの講義・講演 3. (講演各回について) 学生を主体とした質疑応答 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポートおよび口頭発表</p>			

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	構造工学セミナー1A (2 単位) 社会基盤工学分野 1年前期
教員	伊藤 義人 教授 葛 漢彬 准教授 葛西 昭 講師
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい 構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 構造力学、応用構造力学、極限強度学など</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 構造動力学 2. 構造安定理論 3. 耐震設計理論 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法 レポート</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	構造工学セミナー1B (2 単位) 社会基盤工学分野 1年後期
教員	伊藤 義人 教授 葛 漢彬 准教授 葛西 昭 講師
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい 構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 構造力学、応用構造力学、極限強度学など</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 構造動力学 2. 構造安定理論 3. 耐震設計理論 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法 レポート</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	構造工学セミナー1C (2 単位) 社会基盤工学分野 2年前期
教員	伊藤 義人 教授 葛 漢彬 准教授 葛西 昭 講師
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい 構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 構造力学、応用構造力学、極限強度学など</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 構造動力学 2. 構造安定理論 3. 耐震設計理論 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法 レポート</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	構造工学セミナー1D (2 単位) 社会基盤工学分野 2年後期
教員	伊藤 義人 教授 葛 漢彬 准教授 葛西 昭 講師
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい 構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 構造力学、応用構造力学、極限強度学など</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 構造動力学 2. 構造安定理論 3. 耐震設計理論 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法 レポート</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1年前期
教員	中村 光 教授 國枝 稔 准教授
備考	

●本講座の目的およびねらい
海外のコンクリートおよびコンクリート構造物の破壊やその評価に関する研究論文や文献を自ら読み、セミナーにてその内容を紹介する。コンクリートをとりまく世界的レベルでの研究の動向について調査、学習し、自分の研究へのフィードバックを促すことを目的とする。

●パックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1、第2（学部講義）

●授業内容

- 1.Structure of Cement and Concrete
- 2.Mechanical Behavior of Concrete
- 3.Experimental Tools
- 4.Modeling as a Tool for Test Interpretation
- 5.Variation of Model Parameters
- 6.Numerical Simulation of Plain Concrete Fracture Experiments
- 7.Fracture Mechanics for Structural Analysis

●教科書
Fracture Process of Concrete (van Mier)

●参考書
特なし

●成績評価の方法
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、55%以上を合格とする。
なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1年後期
教員	中村 光 教授 國枝 稔 准教授
備考	

●本講座の目的およびねらい
海外のコンクリートおよびコンクリート構造物の破壊やその評価に関する研究論文や文献を自ら読み、セミナーにてその内容を紹介する。コンクリートをとりまく世界的レベルでの研究の動向について調査、学習し、自分の研究へのフィードバックを促すことを目的とする。

●パックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1、第2（学部講義）

●授業内容

- 1.Structure of Cement and Concrete
- 2.Mechanical Behavior of Concrete
- 3.Experimental Tools
- 4.Modeling as a Tool for Test Interpretation
- 5.Variation of Model Parameters
- 6.Numerical Simulation of Plain Concrete Fracture Experiments
- 7.Fracture Mechanics for Structural Analysis

●教科書
Fracture Process of Concrete (van Mier)

●参考書
特なし

●成績評価の方法
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、55%以上を合格とする。
なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 2年前期
教員	中村 光 教授 國枝 稔 准教授
備考	

●本講座の目的およびねらい
海外のコンクリートおよびコンクリート構造物の破壊やその評価に関する研究論文や文献を自ら読み、セミナーにてその内容を紹介する。コンクリートをとりまく世界的レベルでの研究の動向について調査、学習し、自分の研究へのフィードバックを促すことを目的とする。

●パックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1、第2（学部講義）

●授業内容

- 1.Structure of Cement and Concrete
- 2.Mechanical Behavior of Concrete
- 3.Experimental Tools
- 4.Modeling as a Tool for Test Interpretation
- 5.Variation of Model Parameters
- 6.Numerical Simulation of Plain Concrete Fracture Experiments
- 7.Fracture Mechanics for Structural Analysis

●教科書
Fracture Process of Concrete (van Mier)

●参考書
特なし

●成績評価の方法
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、55%以上を合格とする。
なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 2年後期
教員	中村 光 教授 國枝 稔 准教授
備考	

●本講座の目的およびねらい
海外のコンクリートおよびコンクリート構造物の破壊やその評価に関する研究論文や文献を自ら読み、セミナーにてその内容を紹介する。コンクリートをとりまく世界的レベルでの研究の動向について調査、学習し、自分の研究へのフィードバックを促すことを目的とする。

●パックグラウンドとなる科目
材料工学、コンクリート構造第1、第2（学部講義）

●授業内容

- 1.Structure of Cement and Concrete
- 2.Mechanical Behavior of Concrete
- 3.Experimental Tools
- 4.Modeling as a Tool for Test Interpretation
- 5.Variation of Model Parameters
- 6.Numerical Simulation of Plain Concrete Fracture Experiments
- 7.Fracture Mechanics for Structural Analysis

●教科書
Fracture Process of Concrete (van Mier)

●参考書
特なし

●成績評価の方法
毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、55%以上を合格とする。
なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	海岸・海洋工学セミナー1A (2 単位) 社会基盤工学分野 1年前期
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授
備考	

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。
達成目標
1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。
2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握できる。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容
1. 波浪解析
2. 波と構造物の非線形相互干渉問題
3. 波と構造物と地盤の達成問題
4. 海浜変形
5. 海域の流動・密度・水質構造
6. 海域の生態系

●教科書
各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書
指定はしない。

●成績評価の方法
セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、55点以上を合格。
履修条件・注意事項等：セミナーでの発表はPowerPointを使用すること。
質問への対応：セミナー時に対応。
連絡先：水谷（内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp）

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	海岸・海洋工学セミナー1B (2 単位) 社会基盤工学分野 1年後期
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授
備考	

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。
達成目標
1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。
2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握できる。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容
1. 波浪解析
2. 波と構造物の非線形相互干渉問題
3. 波と構造物と地盤の達成問題
4. 海浜変形
5. 海域の流動・密度・水質構造
6. 海域の生態系

●教科書
各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書
指定はしない。

●成績評価の方法
セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、55点以上を合格。
履修条件・注意事項等：セミナーでの発表はPowerPointを使用すること。
質問への対応：セミナー時に対応。
連絡先：水谷（内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp）

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	海岸・海洋工学セミナー1C (2 単位) 社会基盤工学分野 2年前期
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授
備考	

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。
達成目標
1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。
2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握できる。

●バックグラウンドとなる科目
海岸力学特論、港工学特論、港工学演習

●授業内容
1. 波浪解析
2. 波と構造物の非線形相互干渉問題
3. 波と構造物と地盤の達成問題
4. 海浜変形
5. 海域の流動・密度・水質構造
6. 海域の生態系

●教科書
各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書
指定はしない。

●成績評価の方法
セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、55点以上を合格。
履修条件・注意事項等：セミナーでの発表はPowerPointを使用すること。
質問への対応：セミナー時に対応。
連絡先：水谷（内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp）

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	海岸・海洋工学セミナー1D (2 単位) 社会基盤工学分野 2年後期
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授
備考	

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。
達成目標
1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。
2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握できる。

●バックグラウンドとなる科目
海岸力学特論、港工学特論、港工学演習

●授業内容
1. 波浪解析
2. 波と構造物の非線形相互干渉問題
3. 波と構造物と地盤の達成問題
4. 海浜変形
5. 海域の流動・密度・水質構造
6. 海域の生態系

●教科書
各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書
指定はしない。

●成績評価の方法
セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、55点以上を合格。
履修条件・注意事項等：セミナーでの発表はPowerPointを使用すること。
質問への対応：セミナー時に対応。
連絡先：水谷（内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp）

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>流域保全学セミナー1A (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 1年前期</p> <p>教員</p> <p>辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>流域保全学セミナー1B (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 1年後期</p> <p>教員</p> <p>辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授</p>
<hr/>	
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>流域の水理・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>河川工学、流域水文学、開水路水理学、水理学、人間活動と環境。</p> <p>●授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 河川・流域の整備・管理の理念 2. 河川・流域景観の構成 3. 流出・土砂生産 4. 河道のプロセス 5. 生息環境評価の手法 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>セミナーでの発表及びレポート</p>	

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>流域保全学セミナー1C (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 2年前期</p> <p>教員</p> <p>辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>流域保全学セミナー1D (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 2年後期</p> <p>教員</p> <p>辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授</p>
<hr/>	
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>流域の水理・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>水理学、流域水文学、人間活動と環境、河川工学、開水路水理学</p> <p>●授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 河川・流域の整備・管理の理念 2. 河川・流域景観の構成 3. 流出・土砂生産 4. 河道のプロセス 5. 生息環境評価の手法 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>セミナーでの発表及びレポート</p>	

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	地盤環境学セミナー1A (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	1年前期
教員	浅岡 顕 教授 中野 正樹 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	地盤工学の最新の話題を把握し、それを解決するための地盤力学の課題、その他基礎学理の所在を理解する。 1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理について説明できる。 2. 沖積・洪積粘土地盤の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。 3. 中間土、特殊土、建設発生土の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。 4. 変形特性に基づく各種地盤材料の分類を行い、説明できる。
●パックグラウンドとなる科目	
●授業内容	連続体力学特論、地盤力学特論、数値解析学特論
●教科書	特になし
●参考書	特になし
●成績評価の方法	セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	地盤環境学セミナー1B (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	1年後期
教員	浅岡 顕 教授 中野 正樹 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	地盤工学の最新の話題を把握し、それを解決するための地盤力学の課題、その他基礎学理の所在を理解する。 1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理について説明できる。 2. 沖積・洪積粘土地盤の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。 3. 中間土、特殊土、建設発生土の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。 4. 変形特性に基づく各種地盤材料の分類を行い、説明できる。
●パックグラウンドとなる科目	
●授業内容	連続体力学特論、地盤力学特論、数値解析学特論
●教科書	特になし
●参考書	特になし
●成績評価の方法	セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	地盤環境学セミナー1C (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	2年後期
教員	浅岡 顕 教授 中野 正樹 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	地盤工学の最新の話題を把握し、それを解決するための地盤力学の課題、その他基礎学理の所在を理解する。 1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理について説明できる。 2. 沖積・洪積粘土地盤の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。 3. 中間土、特殊土、建設発生土の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。 4. 変形特性に基づく各種地盤材料の分類を行い、説明できる。
●パックグラウンドとなる科目	連続体力学特論、地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地盤解析学演習、地盤動力学演習、数値解析学特論
●授業内容	1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理 2. 沖積粘土地盤のせん断特性と長期沈下 3. 洪積粘土地盤のせん断特性と長期沈下 4. 渋岩のスレーリングとその対策 5. 不良土の改良技術、改良地盤材料の力学挙動の記述 6. 地盤材料学
●教科書	特になし
●参考書	特になし
●成績評価の方法	セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	地盤環境学セミナー1D (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	2年後期
教員	浅岡 顕 教授 中野 正樹 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	地盤工学の最新の話題を把握し、それを解決するための地盤力学の課題、その他基礎学理の所在を理解する。 1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理について説明できる。 2. 沖積・洪積粘土地盤の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。 3. 中間土、特殊土、建設発生土の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。 4. 変形特性に基づく各種地盤材料の分類を行い、説明できる。
●パックグラウンドとなる科目	連続体力学特論、地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地盤解析学演習、地盤動力学演習、数値解析学特論
●授業内容	1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理 2. 沖積粘土地盤のせん断特性と長期沈下 3. 洪積粘土地盤のせん断特性と長期沈下 4. 渋岩のスレーリングとその対策 5. 不良土の改良技術、改良地盤材料の力学挙動の記述 6. 地盤材料学
●教科書	特になし
●参考書	特になし
●成績評価の方法	セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>国土防災安全工学セミナー1A (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 1年前期</p> <p>教員</p> <p>野田 利弘 準教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>国土防災安全工学セミナー1B (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 1年後期</p> <p>教員</p> <p>野田 利弘 準教授</p>
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策などを理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 軟弱地盤力学の基礎 地盤構造物の変形・安定性 軟弱地盤における地盤・構造物の設計法 地盤補強・改良工法の設計 耐震工学の基礎 地震入力 地震応答解析及び耐震安全性評価 <p>●教科書</p> <p>必要に応じて、プリント配布</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>セミナーでの発表およびディスカッション40%，課題レポートを60%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。</p>	

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>国土防災安全工学セミナー1C (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 2年前期</p> <p>教員</p> <p>野田 利弘 準教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>国土防災安全工学セミナー1D (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 2年後期</p> <p>教員</p> <p>野田 利弘 準教授</p>
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策などを理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 軟弱地盤力学の基礎 地盤構造物の変形・安定性 軟弱地盤における地盤・構造物の設計法 地盤補強・改良工法の設計 耐震工学の基礎 地震入力 地震応答解析及び耐震安全性評価 <p>●教科書</p> <p>必要に応じて、プリント配布</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>セミナーでの発表およびディスカッション40%，課題レポートを60%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。</p>	

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	地図環境保全学セミナー1A (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	1年前期
教員	片山 新太 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	土壤地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、学習・討論を行う。
達成目標	下記の一つの課題について理解し、説明できる。 1. 土壤地下水汚染の発生・移動メカニズム 2. 土壤地下水汚染物質の運命 3. 生物浄化技術および関与する微生物 4. 廃棄物処理（無害化・リサイクル技術等）
●バックグラウンドとなる科目	人間活動と環境、環境地盤工学、衛生工学、社会環境保全学、土壤学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学
●授業内容	土壤地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、発表と討論を行う。
●教科書	各発表者は、最新の論文を5つ以上読み、一つの問題点に対して異なる研究グループのアプローチを整理して紹介する。
●参考書	
●成績評価の方法	論文の理解度、発表時における説明能力、討論への積極的な取り組みの3点から評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	地図環境保全学セミナー1B (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	1年後期
教員	片山 新太 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	土壤地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、学習・討論を行う。
達成目標	下記の二つの課題について理解し、説明できる。 1. 土壤地下水汚染の発生・移動メカニズム 2. 土壤地下水汚染物質の運命 3. 生物浄化技術および関与する微生物 4. 廃棄物処理（無害化・リサイクル技術等）
●バックグラウンドとなる科目	人間活動と環境、環境地盤工学、衛生工学、社会環境保全学、土壤学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地図環境保全学セミナー1A
●授業内容	土壤地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、輪講を行う。
●教科書	各発表者は、最新の論文を5つ以上読み、一つの問題点に対して異なる研究グループのアプローチを整理して紹介する。
●参考書	
●成績評価の方法	論文の理解度、発表時における説明能力、討論への積極的な取り組みの3点から評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	地図環境保全学セミナー1C (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	2年前期
教員	片山 新太 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	土壤地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、学習・討論を行う。
達成目標	下記の内、3つの課題について理解し、説明できる。 1. 土壤地下水汚染の発生・移動メカニズム 2. 土壤地下水汚染物質の運命 3. 生物浄化技術および関与する微生物 4. 廃棄物処理（無害化・リサイクル技術等）
●バックグラウンドとなる科目	人間活動と環境、環境地盤工学、衛生工学、社会環境保全学、土壤学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地図環境保全学セミナー1A、1B
●授業内容	土壤地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、輪講を行う。
●教科書	各発表者は、最新の論文を5つ以上読み、一つの問題点に対して異なる研究グループのアプローチを整理して紹介する。
●参考書	
●成績評価の方法	論文の理解度、発表時における説明能力、討論への積極的な取り組みの3点から評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	地図環境保全学セミナー1D (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	2年後期
教員	片山 新太 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	土壤地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、学習・討論を行う。
達成目標	下記の課題について理解し、説明できる。 1. 土壤地下水汚染の発生・移動メカニズム 2. 土壤地下水汚染物質の運命 3. 生物浄化技術および関与する微生物 4. 廃棄物処理（無害化・リサイクル技術等）
●バックグラウンドとなる科目	人間活動と環境、環境地盤工学、衛生工学、社会環境保全学、土壤学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地図環境保全学セミナー1A、1B、1C
●授業内容	土壤地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、アセスメント等について、輪講を行う。
●教科書	各発表者は、最新の論文を5つ以上読み、一つの問題点に対して異なる研究グループのアプローチを整理して紹介する。
●参考書	
●成績評価の方法	論文の理解度、発表時における説明能力、討論への積極的な取り組みの3点から評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>社会基盤計画学セミナー1A (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 1年前期</p> <p>教員</p> <p>中村 英樹 准教授 山本 俊行 准教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>社会基盤計画学セミナー1B (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 1年後期</p> <p>教員</p> <p>中村 英樹 准教授 山本 俊行 准教授</p>
<p>備考</p> <hr/> <p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画</p> <p>●授業内容</p> <p>交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。</p> <p>●教科書</p> <p>適宜指定</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポートと発表</p>	<p>備考</p> <hr/> <p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画</p> <p>●授業内容</p> <p>交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。</p> <p>●教科書</p> <p>適宜指定</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポートと発表</p>

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>社会基盤計画学セミナー1C (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 2年前期</p> <p>教員</p> <p>中村 英樹 准教授 山本 俊行 准教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>社会基盤計画学セミナー1D (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 2年後期</p> <p>教員</p> <p>中村 英樹 准教授 山本 俊行 准教授</p>
<p>備考</p> <hr/> <p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画</p> <p>●授業内容</p> <p>交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。</p> <p>●教科書</p> <p>適宜指定</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポートと発表</p>	<p>備考</p> <hr/> <p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会資本計画、都市・地域計画</p> <p>●授業内容</p> <p>交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。</p> <p>●教科書</p> <p>適宜指定</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポートと発表</p>

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1年前期
教員	北川 徹哉 準教授
備考	

●本講座の目的およびねらい
性能照査型設計と環境負荷最少の社会基盤施設の整備手法について、以下を目標に考究する。
1. 社会基盤構造物の性能照査型設計への近年の傾向を説明できる。
2. 社会基盤構造物の性能照査型設計の構造工学的な背景を説明できる。
3. 社会基盤 整備と環境負荷との関連について説明できる。
4. 社会基盤整備の環境負荷最小化へのアプローチ方法を説明できる。

●バックグラウンドとなる科目
なし

●授業内容
社会基盤の性能照査型設計と環境負荷最少に関する輪講およびディスカッション

●教科書
教員が指定した文献を用いる。

●参考書
なし

●成績評価の方法
ディスカッションの状況およびレポートの採点結果により評価し、55%以上を合格とする。
履修条件・注意事項等：十分な予習を行うこと。
質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1年後期
教員	北川 徹哉 準教授

備考

●本講座の目的およびねらい
性能照査型設計と環境負荷最少の社会基盤施設の整備手法について、以下を目標に考究する。
1. 社会基盤構造物の性能照査型設計への近年の傾向を説明できる。
2. 社会基盤構造物の性能照査型設計の構造工学的な背景を説明できる。
3. 社会基盤 整備と環境負荷との関連について説明できる。
4. 社会基盤整備の環境負荷最小化へのアプローチ方法を説明できる。

●バックグラウンドとなる科目
なし

●授業内容
社会基盤の性能照査型設計と環境負荷最少に関する輪講およびディスカッション

●教科書
教員が指定した文献を用いる。

●参考書
なし

●成績評価の方法
ディスカッションの状況およびレポートの採点結果により評価し、55%以上を合格とする。
履修条件・注意事項等：十分な予習を行うこと。
質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 2年前期
教員	北川 徹哉 準教授

備考

●本講座の目的およびねらい
性能照査型設計と環境負荷最少の社会基盤施設の整備手法について、以下を目標に考究する。
1. 社会基盤構造物の性能照査型設計への近年の傾向を説明できる。
2. 社会基盤構造物の性能照査型設計の構造工学的な背景を説明できる。
3. 社会基盤 整備と環境負荷との関連について説明できる。
4. 社会基盤整備の環境負荷最小化へのアプローチ方法を説明できる。

●バックグラウンドとなる科目
なし

●授業内容
社会基盤の性能照査型設計と環境負荷最少に関する輪講およびディスカッション

●教科書
教員が指定した文献を用いる。

●参考書
なし

●成績評価の方法
ディスカッションの状況およびレポートの採点結果により評価し、55%以上を合格とする。
履修条件・注意事項等：十分な予習を行うこと。
質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 2年後期
教員	北川 徹哉 準教授

備考

●本講座の目的およびねらい
性能照査型設計と環境負荷最少の社会基盤施設の整備手法について、以下を目標に考究する。
1. 社会基盤構造物の性能照査型設計への近年の傾向を説明できる。
2. 社会基盤構造物の性能照査型設計の構造工学的な背景を説明できる。
3. 社会基盤 整備と環境負荷との関連について説明できる。
4. 社会基盤整備の環境負荷最小化へのアプローチ方法を説明できる。

●バックグラウンドとなる科目
なし

●授業内容
社会基盤の性能照査型設計と環境負荷最少に関する輪講およびディスカッション

●教科書
教員が指定した文献を用いる。

●参考書
なし

●成績評価の方法
ディスカッションの状況およびレポートの採点結果により評価し、55%以上を合格とする。
履修条件・注意事項等：十分な予習を行うこと。
質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 セミナー
	社会基盤維持管理学セミナー1A (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1 年前期
教員	鎌石 和雄 教授 山田 駿太郎 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の考え方、安全性の評価手法などに関して国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げセミナーを行う。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総括的な機能設計、機能維持手法のあり方にに関して議論する。	
●パックグラウンドとなる科目	
橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識	
●授業内容	
主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道、などの、ライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
出席と授業中の態度	

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	社会基盤維持管理学セミナー1B (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	1年後期
教員	笛石 和雄 教授 山田 健太郎 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の考え方、安全性の評価手法などに関して国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げセミナーを行う。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総括的な機能設計、機能維持手法のあり方に關して議論する。
●パックグラウンドとなる科目	橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
●授業内容	主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道、などの、ライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	出席と授業中の態度

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	社会基盤維持管理学セミナー1C (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	2 年前期
教員	館石 和雄 教授 山田 健太郎 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	地域、都市、現場を構成する基盤施設、ライフラインの設計の考え方、安全性の評価手法などに関して国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げセミナーを行う。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総括的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。
●バックグラウンドとなる科目	橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
●授業内容	主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道、などの、ライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	出席と授業中の態度

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	社会基盤維持管理学セミナー1D (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	2年後期
教員	館石 和雄 教授 山田 健太郎 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の考え方、安全性の評価手法などに関する国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げセミナーを行う。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総括的な機能設計、機能維持手法のあり方について論議する。
●バックグラウンドとなる科目	橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
●授業内容	主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道、などの、ライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	出席と授業中の態度

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	講義
	連続体力学特論 (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	1年前期
教員	中野 正樹 教授 野田 利弘 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
ベクトル・テンソルの概念を復習し、運動学（運動の幾何学）、平衡則、客觀性など連続体の力学について基礎的事項を理解する。	
1. ベクトル・テンソル解析を理解し、説明できる。 2. 運動する物体の表示法、物体の有する物理量の物質時間微分、物体の変形について表現ができる。 3. 応力テンソルの特徴を理解し、説明できる。 4. 力学に関する各種保存則を理解し、説明できる。 5. 有限要素法に基づく連続体の変形の記述について理解し、説明できる。	
●パックグラウンドとなる科目	
微分積分学、線形代数学・ベクトル解析	
●授業内容	
1. ベクトルとテンソルの理論 2. 基礎的運動学 3. 客觀性 4. 平衡則と場の方程式 5. 構成方程式	
●教科書	
特になし	
●参考書	
田村 武著：連続体力学入門（朝倉書店）	
●成績評価の方法	
期末試験70%、課題レポートを30%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	講義
	数値解析特論 (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	1年前期
教員	山本 俊行 准教授 野田 利弘 准教授 戸田 祐嗣 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
数値解析法の基礎と具体的な手法を理解し、工学問題への応用力を修得する。	
●パックグラウンドとなる科目	
●授業内容	
1. 有限要素法の概念とプログラミング 2. 数値最適化手法 3. スペクトル理論とFFTの原理 4. 常微分方程式の近似解法	
●教科書	
特になし、必要に応じてプリント配布。	
●参考書	
●成績評価の方法	
レポート 100%	

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	講義
	土木地質学特論 (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	2年前期
教員	鈴木 康弘
備考	
●本講座の目的およびねらい	
土木工学における計画・設計・施工と地質学との関係について学ぶ。	
●パックグラウンドとなる科目	
土木地質学、土質力学、地盤工学	
●授業内容	
地盤の風化と浸食、地質構造と地殻の変動、土木工学における計画・設計・施工における地質学の利用と係わりについて講述する。	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
定期試験、レポートによって成績を評価する。	

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	講義
	風工学特論 (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	1年前期
教員	北川 敏哉 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
風が社会や人間にもたらす利益・不利益の両面を知るとともに、風の性質や風が社会基盤に与える様々な対風現象の特徴・メカニズムを理解する。	
●パックグラウンドとなる科目	
なし	
●授業内容	
1. 風の性質 2. 風力エネルギー 3. 風災害 4. ガスト応答 5. 激励振 6. ギヤロッピング 7. フラッター 8. 社会基盤の耐風対策	
●教科書	
ハンドアウトを配布する。	
●参考書	
日本鋼構造協会、構造物の耐風工学、東京電気大学出版。	
●成績評価の方法	
レポートの採点結果により、55%以上を合格とする。 履修条件・注意事項等：特になし。 質問への対応：講義中・講義終了時に対応する。 担当教員連絡先：内線 5918	

<p>課程区分 前期課程 科目区分 主専攻科目 授業形態 講義</p> <p>対象専攻・分野 社会基盤工学分野 開講時期 1年前期</p> <p>教員 片山 新太 教授</p>	<p>課程区分 前期課程 科目区分 主専攻科目 授業形態 セミナー</p> <p>対象専攻・分野 社会基盤工学分野 開講時期 1年前期</p> <p>教員 中村 光 教授</p>
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>土壤地下水汚染の発生から環境への曝露経路、その毒性と環境中での運命、その対策に関する基礎を講義するとともに、環境基準項目や汚染浄化技術、更には廃棄物処理技術などの事例に関して発表討論形式で理解を深め、土や水の環境保全の考え方を修得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>環境地盤工学、微生物学、化学、衛生工学、毒物学、数学、土壤学、水理学</p> <p>●授業内容</p> <p>土壤地下水汚染の発生から環境への曝露経路、その毒性と環境中での運命、その対策に関する基礎を講義するとともに、環境基準項目や汚染浄化技術、更には廃棄物処理技術などの事例に関して学生による発表討論を行う。</p> <p>●教科書</p> <p>関連資料を配付</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>口頭発表と討論能力</p>	

<p>課程区分 前期課程 科目区分 主専攻科目 授業形態 コンクリート構造学特論 (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 社会基盤工学分野 開講時期 1年後期</p> <p>教員 国枝 稔 淳教授</p>	<p>課程区分 前期課程 科目区分 主専攻科目 授業形態 構造力学特論 (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 社会基盤工学分野 開講時期 2年後期</p> <p>教員 葛 漢彬 淳教授</p>
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>本講義の前半では、コンクリートの材料としての基本的な性質を理解し、コンクリートの破壊の本質を学ぶ。後半では、その材料から構成されるコンクリート構造物の破壊および設計と照査の概念について学ぶとともに、高性能なコンクリートの動向について紹介する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>コンクリート構造第1、第2、材料工学（いずれも学部講義）</p> <p>●授業内容</p> <p>1. コンクリート構造物の性能設計とは 2. 硬化コンクリートの性質と破壊 ・コンクリートの力学特性 ・収縮、クリープ ・ひび割れと破壊力学 ・コンクリートの構成則 3. コンクリート部材の破壊とその評価 ・曲げ破壊するはりの評価とその設計 ・せん断破壊するはりの評価とその設計 4. 最近のコンクリート技術と高性能コンクリート（繊維補強コンクリートなど）</p> <p>●教科書</p> <p>教科書は特にないが、各講義で資料が配付される。</p> <p>●参考書</p> <p>Fracture Process of Concrete(CRC, Van Mier) 鉄筋コンクリートの解析と設計(丸善、吉川著)</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポートの結果により判断し、55%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1年前期
教員	伊藤 義人 教授 葛西 昭 講師
備考	

●本講座の目的およびねらい
本講義では、線形弹性体を対象として、応力やひずみの定義、構成則やひずみ-変位関係に着目した分類などについて理解を深められるようする。

●バックグラウンドとなる科目
連続体力学、構造力学

●授業内容
テンソル
応力
ひずみ
麥分原理

●教科書

●参考書

●成績評価の方法
レポート

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1年前期
教員	川崎 浩司 準教授
備考	

●本講座の目的およびねらい
沿岸域における有限振幅波の非線形挙動とその機構について講義する。
達成目標
1. 海域流動の支配方程式を理解し、説明できる。
2. 長波および長波性の波の非線形理論を理解し、説明できる。
3. 津波と高潮の違いおよびその発生メカニズムを理解できる。
4. ラディエーション応力とレイノルズ応力を説明できる。
5. 波平均量の保存則を説明できる。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容
1. 海域流動の支配方程式
2. 長波及び長波性の波の非線形理論
3. 津波と高潮
4. ラディエーション応力とレイノルズ応力
5. 波平均量の保存則

●教科書
特なし。

●参考書
指定はしない。

●成績評価の方法
レポートあるいは試験により目標達成度を評価し、55点以上を合格。
履修条件・注意事項等：授業中の私語・携帯電話の使用は厳禁。
質問への対応：来室、メールによる質問で対応。
連絡先：川崎 (内線4632, kawasaki@civil.nagoya-u.ac.jp)

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1年後期
教員	水谷 法美 教授
備考	

●本講座の目的およびねらい
構造物と波の相互作用問題とそれを含む平面波浪場の特性について講義する。
達成目標
・回折問題を理解し、説明できる。
・減衰定常波を含む波動場を理解し、説明できる。
・浮体の動的応答を理解し、説明できる。

●バックグラウンドとなる科目
海洋力学特論

●授業内容
・回折理論（直立円柱、軸対称構造物）
・ボテンシャルと境界要素法
・グリーン関数と数値解法
・浮体の動揺と波浪応答
・数値波動水槽

●教科書

●参考書
波と漂砂と構造物：植木孝撮著、技報堂出版
海岸波動：土木学会海岸工学委員会、土木学会

●成績評価の方法
期末試験もしくは課題のレポートにより判断し、55%以上を合格とする。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 2年前期
教員	辻本 哲郎 教授
備考	

●本講座の目的およびねらい
流域・河川の管理・保全に関する、多くの学際領域を含んだ技術・学術分野での新しい成果を体得して学ぶ。
達成目標
1. 流域・河川管理の基本的な考え方を理解する。
2. 流域・河川の、各管理目的に応じた流域管理の考え方と、新しい技術・学術の成果について理解し、説明できる。

●バックグラウンドとなる科目
河川工学、流域水文学、開水路水理学、水理学演習、応用水理学演習

●授業内容
1. 流域・河川管理の基本的な考え方
2. 沿水と流域管理
3. 利水と水循環管理
4. 水系の土砂管理
5. 生態系と流域管理

●教科書
プリントを配布する。

●参考書
必要に応じて、指示する。

●成績評価の方法
期末試験(50%)とレポート(50%)による評価。100点満点で55点以上を合格とする。

<p>課程区分 前期課程 科目区分 主専攻科目 授業形態 講義</p> <p>対象専攻・分野 河川計画・河道設計学特論 (2 単位) 開講時期 1年後期</p> <p>教員 戸田 拓嗣 准教授</p>	<p>課程区分 前期課程 科目区分 主専攻科目 授業形態 講義</p> <p>対象専攻・分野 地盤工学特論 (2 単位) 開講時期 1年後期</p> <p>教員 清岡 順 教授</p>
<hr/>	
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>河川計画および河道設計の基本的な方法と、近年問題となっている事柄について講義する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>河川工学、流域水文学、流れの力学、開水路水理学、</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 河川計画の考え方 (河川整備の方針) 2. 河川整備計画と必要な技術 3. 現行の計画・設計の技術 4. 確率と設計 5. 複合的治水システムでの問題 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポート</p>	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>軟弱地盤上に盛土などの構造物を建設したときの、地盤の沈下・破壊挙動について、水～土連成弾塑性力学挙動により表現し、沈下あるいは破壊時のメカニズムを理解し、観測的設計・施工法を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地盤工学における破壊予測、安定・不安定問題に関する基礎知識を説明できる。 2. 地盤の沈下・破壊挙動のメカニズムを説明できる。 3. 観測的設計・施工法の原理、プロセスを説明できる。 <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>連続体力学特論、地盤力学特論、数値解析学特論</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 固有値問題と常微分方程式 2. 破壊予測 3. 軟弱地盤の沈下・破壊挙動 4. 観測的設計・施工法 <p>●教科書</p> <p>特になし</p> <p>●参考書</p> <p>特になし</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>課題レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で55点以上を合格とする。</p>	

<p>課程区分 前期課程 科目区分 主専攻科目 授業形態 講義</p> <p>対象専攻・分野 地盤力学特論 (2 単位) 開講時期 1年前期</p> <p>教員 中野 正樹 教授</p>	<p>課程区分 前期課程 科目区分 主専攻科目 授業形態 講義</p> <p>対象専攻・分野 震災工学特論 (2 単位) 開講時期 2年前期</p> <p>教員 野田 利弘 准教授</p>
<hr/>	
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>水で飽和した土の力学を水～土骨格2相系連成問題として講述し、地盤材料の力学挙動を弾塑性力学に基づいて把握する。次に、その力学挙動を記述する弾塑性構成モデルを説き、構成モデルに基づいて地盤材料の力学挙動を説明する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 有効応力、間隙水圧、非圧縮条件 2. 地盤材料の弾塑性構成則 3. 地盤の変形 4. 地盤材料力学 <p>●教科書</p> <p>特になし</p> <p>●参考書</p> <p>特になし</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>期末試験70%、課題レポートを30%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする</p>	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>わが国では、ほとんどあらゆる土木工学分野において、地震防災に対する配慮が求められるため、地盤・地震工学における近年の進歩と最新研究について講述し、将来の土木技術者、研究者に地震および地震防災に関して、一定水準以上の知識と見識を備えさせることを目的とする。1. 地震・地震工学の基礎と最近の進歩について理解し、説明できる。2. 地震防災における今後の課題と方策について考察できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>特に無し</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 兵庫県南部地震被害 2. 当初の課題 3. わが国の地震防災に対する施策 4. 成果-1-地震調査 5. 成果-1-地盤調査 6. 成果-1-地盤挙動の予測 7. 成果-1-3次元震動実験装置 8. 東海・東南海・南海地震 <p>●教科書</p> <p>特に無し (資料配布)</p> <p>●参考書</p> <p>特に無し</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポート、55点以上を合格</p>	

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	講義
	地盤動力学特論 (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	1 年後期
教員	野田 利弘 準教授 非常勤講師 (基盤)
備考	
●本講座の目的およびねらい	実際の地震時の地盤の検査状況（液化化）などについて把握とともに、地震時などの地盤の繰返し応答特性など、地盤動力学に関する基礎的事項および発展的内容を修得する。
●バックグラウンドとなる科目	連続体力学、土質力学、地盤解析学特論、地盤解析学演習
●授業内容	<p>1. 中越地震について</p> <p>2. 質点・質点系の振動メカニズム</p> <p>3. (1 相系 1 次元) 連続体 (彈性) の振動メカニズム ダブルペールの解、混合問題、フーリエの解など</p> <p>4. 連続体力学の基礎的事項の復習</p> <p>5. 水+土 2 相系の動的問題の捉え方 (混合体理論、支配方程式等)</p>
●教科書	必要に応じて随時資料を配布する。
●参考書	連続体力学入門 (田村武蔵、朝倉書店)、地盤工学ハンドブック (西村直志執筆箇所、地盤工学会)
●成績評価の方法	口頭試問 : 60 %、レポート : 40 %

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	講義
	交通工学特論 (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	1 年前期
教員	中村 英樹 準教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	自動車交通は今日の社会経済活動を支える重要な輸送手段であるが、エネルギー消費量や環境負荷の大きな部分を占めており、これらは交通の制御、運用など各種の交通管理いかんにより大きく左右されることとなる。本講義では、交通流の性質や交通渋滞のメカニズム、道路幾何構造と交通容量、環境負荷、エネルギー消費等との関係を理解し、効果的な交通制御、運用などの各種交通管理手法について解説する。
●バックグラウンドとなる科目	人間活動と環境、確率と統計、交通論、社会資本計画、都市・国土計画
●授業内容	<p>1. 道路交通流の性質</p> <p>2. 道路幾何構造と交通容量</p> <p>3. 交通制御とその効果</p> <p>4. 交通マネジメントとITS</p>
●教科書	特になし
●参考書	
●成績評価の方法	試験またはレポート

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	講義
	社会基盤計画学特論 (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	1 年後期
教員	森川 高行 教授 山本 俊行 準教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	社会资本整備の意義と目的を明らかにし、その計画策定手法について講述する。
●バックグラウンドとなる科目	社会资本計画学
●授業内容	<p>1. 社会資本の概念と種類</p> <p>2. 公共経済学 (社会的厚生とバレート最適、消費者行動と需要曲線、生産者行動と市場均衡、市場の失敗、外部性、公共財)</p> <p>3. 社会資本計画における意思決定</p> <p>4. 評価と意思決定の手法 (費用效益分析法と非市場財の效益評価、効用関数法と社会的厚生関数、多基準分析法とBPR)</p> <p>5. 不確実性下の意思決定 (期待効用理論、ゲーム理論とジレンマ構造、ベイズ論的決定理論と情報価値)</p>
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	レポートと筆記試験

課程区分	前期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	講義
	都市計画特論 (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	1 年前期
教員	加藤 博和 準教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	都市計画策定手法に関する理解を深めるとともに、計画策定技術の素养を修得する。
●バックグラウンドとなる科目	社会资本計画、都市・国土計画、交通論
●授業内容	<p>1. 都市計画の手順</p> <p>2. 土地利用計画</p> <p>3. 都市景観</p> <p>4. 公共交通計画</p> <p>5. 道路計画</p> <p>6. 都市開発</p>
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	レポート

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1年後期
教員	伊藤 義人 教授
備考	

●本講座の目的およびねらい

1. 土木分野における情報の既往の利用方法について理解する。
2. 今後の土木分野において期待される情報システムの利用について理解する。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 土木と情報
2. 情報システムとは
3. GIS
4. CG
5. 施工管理
6. プロジェクト

●教科書

教科書は設定しない。適宜、資料および関係する論文を配布する

●参考書

なし

●成績評価の方法

授業への参加の程度を考慮し、定期的に提出を求めるレポートにより評価を行なう。一部プレゼンテーションを行う。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義
対象専攻・分野 開講時期	都市基盤維持管理学特論 社会基盤工学分野 2年前期
教員	鶴石 和雄 教授 山田 健太郎 教授
備考	

●本講座の目的およびねらい

道路や橋梁などの社会基盤施設を対象として、維持・管理、補修・補強について講述する。

●バックグラウンドとなる科目

構造力学、鋼構造工学、コンクリート構造の基礎知識

●授業内容

1. 社会基盤施設の保全に関する現状と課題
2. 社会基盤施設の検査、点検技術、管理体制
3. 非破壊検査技術とその適用事例
4. 耐久性評価手法
5. 補修・補強技術とその適用事例

●教科書

なし

●参考書

なし

●成績評価の方法

講義に関わるレポート

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1年後期
教員	各教員（社会基盤）
備考	

●本講座の目的およびねらい

途上国の社会資本整備に必要となるべき組織、人材となるべく、途上国の社会資本整備のための設計、維持管理、運用論を修得し、途上国の災害・環境管理論について理解する。

●バックグラウンドとなる科目

特になし

●授業内容

- ・貧困、環境、援助
- ・経済発展、都市化のプロセス
- ・途上国のソフィアインフラ整備（法整備など）
- ・途上国のハドインフラ整備（社会資本など）
- ・開発・環境経済学的思考の基礎
- ・途上国整備組織論（政府、民間、NPO/NGO）
- ・資金調達メカニズム（ODA、PFI/BOTなど・カントリーリスクとプロジェクト紛争調停

●教科書

なし

●参考書

●成績評価の方法

レポート

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 講義
対象専攻・分野 開講時期	途上国開発特論Ⅱ 社会基盤工学分野 2年後期
教員	各教員（社会基盤）
備考	

●本講座の目的およびねらい

途上の社会資本整備に必要となるべき組織、人材となるべく、途上国の社会資本整備のための設計、維持管理、運用論を修得し、途上国の災害・環境管理論について理解する。

●バックグラウンドとなる科目

特になし

●授業内容

- ・土木技術者の人材育成
- ・途上国と地理環境、物質循環
- ・途上国の社会基盤の設計論1（社会環境と設計のコンセプト）
- ・途上国の社会基盤の設計論2（設計コード、国際コード）
- ・途上国の社会基盤のアセットマネジメント
- ・途上国の社会基盤の運用論
- ・灾害リスクマネジメント、途上国の防災・減災・復興学
- ・国際政策論（ODA、NPO、など）

●教科書

なし

●参考書

●成績評価の方法

レポート

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 演習	
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1年後期	
教員	伊藤 義人 教授 葛西 昭 講師 北根 安雄 助教	
備考		

●本講座の目的およびねらい
弹性論、塑性論のアドバンスドコース

●パックグラウンドとなる科目

●授業内容

- 1. 弹性論
- 2. 塑性論

●教科書

●参考書

●成績評価の方法
演習問題解答の発表およびレポート

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 演習	
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1年後期	
教員	中村 光 教授 園枝 忍 准教授	
備考		

●本講座の目的およびねらい
本講義の前半では、コンクリート構造物の維持管理の概要や補修、補強をとおして、土木材料の特性や、複合部材としての力学挙動の基礎を学ぶ。さらに、実際のRCはりを身近な材料で補強し、複合材料の考え方について学ぶ。後半では、コンクリート構造物の設計と照査の概念、ならびに耐震照査で重要な非線形解析を用いた性能照査について学ぶ。

●パックグラウンドとなる科目

コンクリート構造学特論
複合材料学

●授業内容

- 1. コンクリート構造物の維持管理と補修、補強
- ・コンクリート構造物の劣化と維持管理
- ・コンクリート構造物の補修、補強方法
- ・新しい建設材料との応用
- 2. RCはりの補強コンテスト
- ・補強のコンセプトとプレゼンテーション
- ・試験体の作製
- ・破壊試験とその評価
- 3. 非線形解析によるコンクリート構造物の性能照査
- ・設計と照査
- ・非線形解析の問題点と解決法
- ・材料の構成則

●教科書
教科書は特にないが、各講義で資料が配付される。

●参考書

●成績評価の方法
レポートの結果により判断し、55%以上を合格とする。なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 演習	
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1年後期	
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授 李 光浩 助教	
備考		

●本講座の目的およびねらい
沿岸域における現象について、問題を見いだし、解決するための方法を考え、自ら解決するための能力を身につける。

●パックグラウンドとなる科目
海洋力学特論、海工学特論

●授業内容
沿岸域で問題となっている現象を取り上げ、それを課題に、問題解決の方法、手法を整理し、その問題を解決するための演習を行う。

●教科書
特に指定しない

●参考書
特に指定しない

●成績評価の方法
演習レポートと口頭発表により目標達成度を評価し、55点以上を合格。
履修条件・注意事項等：特になし。
質問への対応：来室、メールによる質問で対応。
連絡先：水谷（内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp）、川崎（内線4632, kawasaki@civil.nagoya-u.ac.jp）

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主専攻科目 演習	
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1年後期	
教員	辻本 拓郎 教授 戸田 拓嗣 准教授 田代 喬 助教	
備考		

●本講座の目的およびねらい
河川の流れ・地形の解析や、流域の水・物質輸送に関する解析手法に関する演習を行う
1. 河道の流れや流域水輸送の解析手法の理論を理解する。
2. 河道の流れや流域水輸送の数値解析モデルを用いて、想定した条件に応じた流れの計算を行い、表示できる。

●パックグラウンドとなる科目
流れの力学（水理学）、開水路水理学、流域水文学、河川工学

●授業内容

- 1. 河道の流れ・地形解析の理論と解析手法
- 2. 地下水・土壤中の流れの理論と解析手法

●教科書
プリントを配布する。

●参考書
必要に応じて指定する

●成績評価の方法
レポート(100%)で評価し55%以上を合格とする。

<p>課程区分 前期課程 科目区分 主専攻科目 授業形態 演習</p> <p>対象専攻・分野 社会基盤工学分野 開講時期 1年後期</p> <p>教員 渡辺 順一 教授 中野 正樹 教授</p> <p>備考</p> <p>●本講座の目的およびねらい 地盤体力学と有限変形解析の基礎理論を学習させ、水-土骨格2相系の弾塑性有限要素解析の基礎を習得する。また、砂、粘土を表す材料定数を設定し、各種地盤材料の応答も理解する。</p> <p>●パックグラウンドとなる科目 連続体力学特論、地盤力学特論、数値解析特論</p> <p>●授業内容 1. 支配方程式の弱形式化 2. 土骨格の弾塑性構成式 3. 砂、粘土の応答</p> <p>●教科書 特になし</p> <p>●参考書 特になし</p> <p>●成績評価の方法 レポート</p>	<p>課程区分 前期課程 科目区分 主専攻科目 授業形態 演習</p> <p>対象専攻・分野 社会基盤工学分野 開講時期 1年後期</p> <p>教員 野田 利弘 准教授 山田 英司 助教 中井 錠太郎 助教</p> <p>備考</p> <p>●本講座の目的およびねらい 地盤の動的・振動問題について、地盤動力学特論で修得した事項をベースにして、観測ならびに演習形式で具体的な簡単な地盤の動的問題に対するプログラミングを実施し、これらを通じて動的問題に対する基礎的な概念を深く理解する。</p> <p>●パックグラウンドとなる科目 土質力学、地盤工学、耐震工学、連続体力学、地盤動力学特論、数値解析特論</p> <p>●授業内容 1. 現場観測 2. 差分法を用いた比較的な簡単な地盤の動的問題に対するプログラミング 3. 各種例題による動的問題の把握</p> <p>●教科書 必要に応じて随時資料を配布する。</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法 レポート：100%</p>
--	---

<p>課程区分 前期課程 科目区分 主専攻科目 授業形態 演習</p> <p>対象専攻・分野 社会基盤計画学演習 開講時期 1年前期</p> <p>教員 中村 英樹 准教授 山本 俊行 准教授 三輪 富生 助教</p> <p>備考</p> <p>●本講座の目的およびねらい 都市計画、交通計画、地域計画などにおけるシステム分析手法について実習を行う。目標は、重回帰分析、主成分分析、判別分析、離散選択モデルについて理解し、与えられたデータに対して適した手法を選択出来ること。その上で、正しい結果を導き、適切な結果の解釈が出来ること。</p> <p>●パックグラウンドとなる科目 ミクロ経済学の基礎と、確率・統計学や数理計画法などの分析手法についてある程度知識があることが望ましい。</p> <p>●授業内容 1. データ解析のための統計分析手法とツール 2. 重回帰分析 基礎 3. 重回帰分析 応用（モデルの特定化・誤差項の問題、一般化最小二乗法） 4. 主成分分析 5. 判別分析 6. 離散型選択モデル 理論 7. 離散型選択モデル 実践</p> <p>●教科書 河上省吾編著：土木計画学、鹿島出版会、北村隆一、森川高行、佐々木邦明、藤井聰、山本俊行：交通行動の分析とモデリング—理論/モデル/調査/応用ー、技報堂出版 G.S.マダラ（和合著者）：計量経済分析の方法、シーエービー出版</p> <p>●参考書 河上省吾編著：土木計画学、鹿島出版会、北村隆一、森川高行、佐々木邦明、藤井聰、山本俊行：交通行動の分析とモデリング—理論/モデル/調査/応用ー、技報堂出版 G.S.マダラ（和合著者）：計量経済分析の方法、シーエービー出版</p> <p>●成績評価の方法 レポート</p>	<p>課程区分 前期課程 科目区分 主専攻科目 授業形態 演習</p> <p>対象専攻・分野 社会基盤工学分野 開講時期 1年前期</p> <p>教員 伊藤 義人 教授 北川 徹哉 准教授 北川 安雄 助教</p> <p>備考</p> <p>●本講座の目的およびねらい 社会基盤における情報処理の現状と活用技術を学ぶ。 1. 社会基盤構造物・施設における情報技術活用の現状を説明できる。 2. 建設情報システムの利点と問題点が説明できる。 3. 情報収集とその処理、分析、評価およびプレゼンテーションができる。</p> <p>●パックグラウンドとなる科目 情報処理序論（学部）、学術情報処理学及び演習（学部）</p> <p>●授業内容 1. 社会基盤と情報との関わり 2. 社会基盤構造物・施設における情報の役割や活用法に関する調査および演習 3. 社会情報の収集、処理、分析、評価 4. 社会基盤構造物・施設に関する情報収集とその処理、分析、評価に関する演習 5. プrezentation・ディスカッション</p> <p>●教科書 指定しない。</p> <p>●参考書 指定しない。</p> <p>●成績評価の方法 レポートとプレゼンテーションにより評価し、55%以上を合格とする。 ・注意事項等：特になし。 ・質問への対応：講義終了時に応対する。 担当教員連絡先：内線 5918</p>
---	--

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主導攻科目 演習
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1年後期
教員	鎌石 和哉 教授 山田 健太郎 教授
備考	

●本講座の目的およびねらい

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 主導攻科目 演習
対象専攻・分野 開講時期	土水環境保全学演習 (1 単位) 社会基盤工学分野 1年後期
教員	片山 新太 教授 井上 康 助教
備考	

●本講座の目的およびねらい

土壤地下水汚染および廃棄物処理に関する研究を行うために必要となる基礎技術を理解する。

●バックグラウンドとなる科目

環境地盤工学、化学、微生物学、水理学

●授業内容

土水の理化学性分析法、微生物の取り扱い法、汚染物質の分析法、地盤中の物質輸送解析法

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

原理の理解

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 実験及び演習
対象専攻・分野 開講時期	高度総合工学創造実験 (3 単位) 全専攻・分野共通 1年前期後期～2年前期後期
教員	松村 年郎 教授
備考	

●本講座の目的およびねらい

異なる専門分野からなる数人のチームを編制し、企業からの非常勤講師(Directing Professor)の下に自主的研究を行う。その目的およびねらいは
 ・異種集団グループ ダイナミックスによる創造性の活性化
 ・異種集団グループダイナミックスならでは の発明、発見体験
 ・自己専門の可能性と限界の認識　・自らの能力で知識を総合化することである。

●バックグラウンドとなる科目

「高度総合工学創造実験」は、産学連携教育科目と位置づけられる。また、「ベンチャービジネス特論I, II」および学部開講科目「特許および知的財産」、「経営工学」、「産業と経済」、「工学倫理」は産学連携教育関連科目と位置づけられる。これらの科目の履修を強く推奨する。

●授業内容

異なる専攻・学部の学生からなる数人で1チームを編制し、Directing Professorの指導の下に設定したプロジェクトを60時間(3ヵ月)(週1日)にわたりTA(ティーチングアシスタント)とともに遂行する。1週間のとりまとめ、準備の後、各チーム毎に発表および展示、討議を行う。

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

実験の遂行、討議と発表会

課程区分 科目区分 授業形態	前期課程 総合工学科目 実習
対象専攻・分野 開講時期	研究インターンシップ (2 単位) 全専攻・分野共通 1年前期後期～2年前期後期
教員	松村 年郎 教授
備考	

●本講座の目的およびねらい

就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。

●バックグラウンドとなる科目

「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容

・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。
 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を実施する。
 ・各自課題を取り組むための専門知識の獲得にも努める
 ・1～6ヶ月間企業に潜入しインターンシップを実施する。
 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書

なし

●参考書

なし

●成績評価の方法

企業において研究インターンシップに従事した総日数20日以下のものに与えられる。

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 総合工学科目 実習</p> <p>研究インターンシップ (3 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期</p> <p>教員</p> <p>松村 年郎 教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 総合工学科目 実習</p> <p>研究インターンシップ (4 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期</p> <p>教員</p> <p>松村 年郎 教授</p>
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1~6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同II」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。 ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める ・1~6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。 ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。 <p>●教科書</p> <p>なし</p> <p>●参考書</p> <p>なし</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>企業において研究インターンシップに従事した総日数21日以上40日以下のものに与えられる。</p>	

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 総合工学科目 講義</p> <p>最先端理工学特論 (1 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期</p> <p>教員</p> <p>田淵 雅夫 准教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 総合工学科目 実習</p> <p>最先端理工学実験 (1 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期</p> <p>教員</p> <p>山根 隆 教授 田淵 雅夫 准教授</p>
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>工学における最先端研究の動向を学び、また、その研究を行うために必要な高度な知識を習得させることを目的とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容</p> <p>最先端工学に関する特別講義を受講し、また、最先端工学の研究発表が行われるシンポジウムやセミナーへ参加し、レポートを提出する。</p> <p>●教科書</p> <p>なし</p> <p>●参考書</p> <p>なし</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポート</p>	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>工学における最先端研究の動向を学び、また、その研究を行うために必要な高度な実験に関する技術を習得することを目的とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容</p> <p>あらかじめ設定された実験（課題実験）あるいは受講者が提案する実験（独創実験）のいずれかからテーマを選択し、実験を行う。</p> <p>●教科書</p> <p>なし</p> <p>●参考書</p> <p>なし</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>研究成果発表とレポート</p>	

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 総合工学科目 講義</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>教員</p>	<p>コミュニケーション学 (1 単位)</p> <p>全専攻・分野共通 1年後期 2年後期</p> <p>古谷 礼子 深教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 総合工学科目 講義</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>教員</p>	<p>ベンチャービジネス特論Ⅰ (2 単位)</p> <p>全専攻・分野共通 1年前期 2年前期</p> <p>田淵 雅夫 深教授</p>
<hr/>			
備考			
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>母国語ではない言葉で論文を上手に発表するために必要な留意事項を学ぶ。留学生は日本語で発表する。日本人学生も受講することができるが、発表は英語で行う。</p> <p>●パックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容</p> <p>(1) ビデオ録画された論文発表を見る</p> <p>モデル発表を見てよい発表とは何かを討論し、発表する時に必要なテクニックを学ぶ</p> <p>(2) 発表する</p> <p>クラスで討論した発表のテクニックを用いて、学生各自が主題を選んで論文を発表する</p> <p>(3) 討論する</p> <p>クラスメイトの発表を相互に評価し合う きびしい意見、激励や助言をお互いに交わす</p> <p>●教科書</p> <p>なし</p> <p>●参考書</p> <p>(1) 「英語プレゼンテーションの技術」 安田 正、ジャック ニクリン著 The Japan Times (2) 「研究発表の方法 留学生のためのレポート作成 口頭発表の準備の手続き」 産能短期大学日本語教育研究室著 凡人社</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>発表論文とclass discussion (平常点)の結果による</p>			

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 総合工学科目 講義</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>教員</p>	<p>ベンチャービジネス特論Ⅱ (2 単位)</p> <p>全専攻・分野共通 1年後期 2年後期</p> <p>田淵 雅夫 深教授 枝川 明敬 教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>前期課程 総合工学科目 実習</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>教員</p>	<p>学外実習A (1 単位)</p> <p>社会基盤工学分野 1年前期後期 2年前期後期</p> <p>各教員 (社会基盤)</p>
<hr/>			
備考			
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>前期において講義された事業化、企業内起業やベンチャー起業の実例等を参考に、事業化や起業のために必要な専門的な知識を公認会計士や中小企業診断士等の専門家と交えて講義する。受講生の知識の範囲を考慮し、前半では経営学の基本的知識の起業化への応用と展開について教授し、後半では、経営戦略、ファイナンスといったMBAで通常講義されている内容の基礎を理解してもらう。受講の前提として、身近な起業化の例を講義する前半Iを受講するのが望ましい。</p> <p>●パックグラウンドとなる科目</p> <p>ベンチャービジネス特論Ⅰ、卒業研究、修士課程の研究。経営学、経済学の基礎知識があればなおよい。</p> <p>●授業内容</p> <p>1. 日本経済とベンチャービジネス 2. ベンチャービジネスの現状 3. ベンチャーコンペティション戦略 4. ベンチャーコンペティティング戦略 5. ベンチャーコンペティション戦略 6. ベンチャーコンペティション戦略 7. 事例研究(経営戦略に重点) 8. 事例研究(マーケティング戦略に重点) 9. 事例研究(財務戦略に重点) 10. 事例研究(資本政策に重点-IPO企業) 11. ビジネスプラン ビジネス・アイデアと競争優位 12. ビジネスプラン 収益計画 13. ビジネスプラン 資金計画 14. ビジネスプラン ビジネスプランの運用とまとめ 15.まとめ</p> <p>●教科書</p> <p>適宜資料配布</p> <p>●参考書</p> <p>適宜指導</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>授業中に出題される課題</p>			

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>構造工学セミナー2A (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 1年前期</p> <p>教員</p> <p>伊藤 義人 教授 葛 漢彬 准教授 葛西 昭 講師</p> <p>備考</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>構造工学セミナー2B (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 1年後期</p> <p>教員</p> <p>伊藤 義人 教授 葛 漢彬 准教授 葛西 昭 講師</p> <p>備考</p>
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>構造力学、応用構造力学、極限強度学など</p> <p>●授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 構造動力学 2. 構造安定理論 3. 耐震設計理論 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポート</p>	<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>構造力学、応用構造力学、極限強度学など</p> <p>●授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 構造動力学 2. 構造安定理論 3. 耐震設計理論 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポート</p>

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>構造工学セミナー2C (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 2年前期</p> <p>教員</p> <p>伊藤 義人 教授 葛 漢彬 准教授 葛西 昭 講師</p> <p>備考</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>構造工学セミナー2D (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 2年後期</p> <p>教員</p> <p>伊藤 義人 教授 葛 漢彬 准教授 葛西 昭 講師</p> <p>備考</p>
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>構造力学、応用構造力学、極限強度学など</p> <p>●授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 構造動力学 2. 構造安定理論 3. 耐震設計理論 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポート</p>	<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>構造力学、応用構造力学、極限強度学など</p> <p>●授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 構造動力学 2. 構造安定理論 3. 耐震設計理論 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>レポート</p>

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>構造工学セミナー2E (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 3年前期</p> <p>教員</p> <p>伊藤 義人 教授 葛 滋彬 准教授 葛西 昭 講師</p> <p>備考</p> <p>●本講座の目的およびねらい 構造力学、耐震工学の専門書や文献などを選び、輪読する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 構造力学、応用構造力学、極限強度学など</p> <p>●授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 構造力学 2. 構造安定理論 3. 耐震設計理論 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法 レポート</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>材料・形態学セミナー2 A (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 1年前期</p> <p>教員</p> <p>中村 光 教授 國枝 稔 准教授</p> <p>備考</p> <p>●本講座の目的およびねらい 海外のコンクリートおよびコンクリート構造物の破壊やその評価に関する研究論文や文献を自ら読み、セミナーにてその内容を紹介する。コンクリートをとりまく世界的レベルでの研究の動向について調査、学習し、自分の研究へのフィードバックを促すことを目的とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 材料工学、コンクリート構造第1、第2 (学部講義)</p> <p>●授業内容</p> <p>1.Structure of Cement and Concrete 2.Mechanical Behavior of Concrete 3.Experimental Tools 4.Modeling as a Tool for Test Interpretation 5.Variation of Model Parameters 6.Numerical Simulation of Plain Concrete Fracture Experiments 7.Fracture Mechanics for Structural Analysis</p> <p>●教科書 Fracture Process of Concrete (van Mier)</p> <p>●参考書 特になし</p> <p>●成績評価の方法 毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、55%以上を合格とする。 なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。</p>
--	--

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>材料・形態学セミナー2 B (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 1年後期</p> <p>教員</p> <p>中村 光 教授 國枝 稔 准教授</p> <p>備考</p> <p>●本講座の目的およびねらい 海外のコンクリートおよびコンクリート構造物の破壊やその評価に関する研究論文や文献を自ら読み、セミナーにてその内容を紹介する。コンクリートをとりまく世界的レベルでの研究の動向について調査、学習し、自分の研究へのフィードバックを促すことを目的とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 材料工学、コンクリート構造第1、第2 (学部講義)</p> <p>●授業内容</p> <p>1.Structure of Cement and Concrete 2.Mechanical Behavior of Concrete 3.Experimental Tools 4.Modeling as a Tool for Test Interpretation 5.Variation of Model Parameters 6.Numerical Simulation of Plain Concrete Fracture Experiments 7.Fracture Mechanics for Structural Analysis</p> <p>●教科書 Fracture Process of Concrete (Van Mier)</p> <p>●参考書 特になし</p> <p>●成績評価の方法 毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、55%以上を合格とする。 なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>材料・形態学セミナー2 C (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 2年前期</p> <p>教員</p> <p>中村 光 教授 國枝 稔 准教授</p> <p>備考</p> <p>●本講座の目的およびねらい 海外のコンクリートおよびコンクリート構造物の破壊やその評価に関する研究論文や文献を自ら読み、セミナーにてその内容を紹介する。コンクリートをとりまく世界的レベルでの研究の動向について調査、学習し、自分の研究へのフィードバックを促すことを目的とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 材料工学、コンクリート構造第1、第2 (学部講義)</p> <p>●授業内容</p> <p>1.Structure of Cement and Concrete 2.Mechanical Behavior of Concrete 3.Experimental Tools 4.Modeling as a Tool for Test Interpretation 5.Variation of Model Parameters 6.Numerical Simulation of Plain Concrete Fracture Experiments 7.Fracture Mechanics for Structural Analysis</p> <p>●教科書 Fracture Process of Concrete (van Mier)</p> <p>●参考書 特になし</p> <p>●成績評価の方法 毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、55%以上を合格とする。 なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。</p>
--	--

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 2年後期</p> <p>教員</p> <p>中村 光 教授 國枝 稔 准教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 3年前期</p> <p>教員</p> <p>中村 光 教授 國枝 稔 准教授</p>
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>海外のコンクリートおよびコンクリート構造物の破壊やその評価に関する研究論文や文献を自ら読み、セミナーにてその内容を紹介する。コンクリートをとりまく世界的レベルでの研究の動向について調査、学習し、自分の研究へのフィードバックを促すことを目的とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>材料工学、コンクリート構造第1、第2（学部講義）</p> <p>●授業内容</p> <p>1.Structure of Cement and Concrete 2.Mechanical Behavior of Concrete 3.Experimental Tools 4.Modeling as a Tool for Test Interpretation 5.Variation of Model Parameters 6.Numerical Simulation of Plain Concrete Fracture Experiments 7.Fracture Mechanics for Structural Analysis</p> <p>●教科書</p> <p>Fracture Process of Concrete (van Mier)</p> <p>●参考書</p> <p>Fracture Process of Concrete (van Mier)</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>毎回のプレゼンテーションおよび口頭試問の結果により判断し、55%以上を合格とする。 なお、無断欠席が1/2以上の場合は、評価の対象としない。</p>	

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>海岸・海洋工学セミナー 2 A 社会基盤工学分野 1年前期</p> <p>教員</p> <p>水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>海岸・海洋工学セミナー 2 B 社会基盤工学分野 1年後期</p> <p>教員</p> <p>水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授</p>
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表、議論を行う。 達成目標 1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。 2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握でき、各自の研究で活用・応用できる</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容</p> <p>1. 波浪解析 2. 波と構造物の非線形相互干渉問題 3. 波と構造物と地盤の達成問題 4. 海浜変形 5. 海域の流動・密度・水質構造 6. 海域の生態系</p> <p>●教科書</p> <p>各研究分野に関連する英文論文を選定する。</p> <p>●参考書</p> <p>指定はしない。</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、55点以上を合格。 履修条件・注意事項等：セミナーでの発表はPowerPointを使用すること。 質問への対応：セミナー時に対応。 連絡先：水谷 (内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp)</p>	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	海岸・海洋工学セミナー 2 C (2 単位) 社会基盤工学分野 2年前期
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授
備考	

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。
達成目標
1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。
2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握でき、各自の研究で活用・応用できる

●パックグラウンドとなる科目

●授業内容
1. 波浪解析
2. 波と構造物の非線形相互干渉問題
3. 波と構造物と地盤の達成問題
4. 海浜変形
5. 海域の流動・密度・水質構造
6. 海域の生態系

●教科書
各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書
指定はしない。

●成績評価の方法
セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、55点以上を合格。
履修条件・注意事項等：特になし。
質問への対応：来室、メールによる質問で対応。
連絡先：水谷（内線4630, mizutani@cc.nagoya-u.ac.jp）、川崎（内線4632, kawasaki@civil.nagoya-u.ac.jp）

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	海岸・海洋工学セミナー 2 D (2 単位) 社会基盤工学分野 2年後期
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授
備考	

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。
達成目標
1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。
2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握でき、各自の研究で活用・応用できる

●パックグラウンドとなる科目

●授業内容
1. 波浪解析
2. 波と構造物の非線形相互干渉問題
3. 波と構造物と地盤の達成問題
4. 海浜変形
5. 海域の流動・密度・水質構造
6. 海域の生態系

●教科書
各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書
指定はしない。

●成績評価の方法
セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、55点以上を合格。
履修条件・注意事項等：セミナーでの発表はPowerPointを使用すること。
質問への対応：セミナー時に対応。
連絡先：水谷（内線4630, mizutani@civil.nagoya-u.ac.jp）

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	海岸・海洋工学セミナー 2 E (2 単位) 社会基盤工学分野 3年前期
教員	水谷 法美 教授 川崎 浩司 准教授
備考	

●本講座の目的およびねらい
海岸工学・海洋工学における様々な物理現象を研究するために必要な英文論文を熟読するとともに、発表・議論を行う。
達成目標
1. 海岸・海洋工学における理論的・実験的・数値的研究手法を理解し、説明できる。
2. 関連分野における海外の最新研究動向を把握でき、各自の研究で活用・応用できる

●パックグラウンドとなる科目

●授業内容
1. 波浪解析
2. 波と構造物の非線形相互干渉問題
3. 波と構造物と地盤の達成問題
4. 海浜変形
5. 海域の流動・密度・水質構造
6. 海域の生態系

●教科書
各研究分野に関連する英文論文を選定する。

●参考書
指定はしない。

●成績評価の方法
セミナーにおける口頭発表と質疑応答により目標達成度を評価し、55点以上を合格。
履修条件・注意事項等：セミナーでの発表はPowerPointを使用すること。
質問への対応：セミナー時に対応。
連絡先：水谷（内線4630, mizutani@cc.nagoya-u.ac.jp）

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	流域保全学セミナー2A (2 単位) 社会基盤工学分野 1年前期
教員	辻本 哲郎 教授 戸田 拓嗣 准教授
備考	

●本講座の目的およびねらい
流域の水理・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。

●パックグラウンドとなる科目
水理学、流域水文学、人間活動と環境、河川工学、開水路水理学

●授業内容
1. 河川・流域の整備・管理の理念
2. 河川・流域景観の構成
3. 流出・土砂生産
4. 河道のプロセス
5. 生息環境評価の手法

●教科書

●参考書

●成績評価の方法
セミナーでの発表及びレポート

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>流域保全学セミナー2B (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 1年後期</p> <p>教員</p> <p>辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>流域保全学セミナー2C (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 2年前期</p> <p>教員</p> <p>辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授</p>
<hr/>	
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>流域の水理・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>水理学、流域水文学、人間活動と環境、河川工学、開水路水理学</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 河川・流域の整備・管理の理念 2. 河川・流域景観の構成 3. 流出・土砂生産 4. 河道のプロセス 5. 生息環境評価の手法 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>セミナーでの発表及びレポート</p>	

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>流域保全学セミナー2D (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 2年後期</p> <p>教員</p> <p>辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>流域保全学セミナー2E (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 3年前期</p> <p>教員</p> <p>辻本 哲郎 教授 戸田 祐嗣 准教授</p>
<hr/>	
備考	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>流域の水理・水文特性と生態環境の関連について研究動向を学ぶ。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>水理学、流域水文学、人間活動と環境、河川工学、開水路水理学</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 河川・流域の整備・管理の理念 2. 河川・流域景観の構成 3. 流出・土砂生産 4. 河道のプロセス 5. 生息環境評価の手法 <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>セミナーでの発表及びレポート</p>	

課程区分	後期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	地盤環境学セミナー2A (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1年前期
教員	浅岡 順 教授 中野 正樹 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	地盤工学の最新の話題を把握し、それを解決するための地盤力学の課題、その他基礎学理の所在を理解する。 1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理について説明できる。 2. 沖積・洪積粘土地盤の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈ができる。 3. 中間土、特殊土、建設発生土の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。 4. 変形特性に基づく各種地盤材料の分類を行い、説明できる。
●パックグラウンドとなる科目	連続体力学特論、地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地盤解析学演習、地盤動力学演習
●授業内容	1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理 2. 沖積粘土地盤のせん断特性と長期沈下 3. 洪積粘土地盤のせん断特性と長期沈下 4. 泥岩のスレーリングとその対策 5. 不良土の改良技術、改良地盤材料の力学挙動の記述 6. 地盤材料学
●教科書	特になし
●参考書	特になし
●成績評価の方法	セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分	後期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	地盤環境学セミナー2B (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1年後期
教員	浅岡 順 教授 中野 正樹 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	地盤工学の最新の話題を把握し、それを解決するための地盤力学の課題、その他基礎学理の所在を理解する。 1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理について説明できる。 2. 沖積・洪積粘土地盤の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈ができる。 3. 中間土、特殊土、建設発生土の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。 4. 変形特性に基づく各種地盤材料の分類を行い、説明できる。
●パックグラウンドとなる科目	連続体力学特論、地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地盤解析学演習、地盤動力学演習
●授業内容	1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理 2. 沖積粘土地盤のせん断特性と長期沈下 3. 洪積粘土地盤のせん断特性と長期沈下 4. 泥岩のスレーリングとその対策 5. 不良土の改良技術、改良地盤材料の力学挙動の記述 6. 地盤材料学
●教科書	特になし
●参考書	特になし
●成績評価の方法	セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分	後期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	地盤環境学セミナー2C (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 2年前期
教員	浅岡 順 教授 中野 正樹 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	地盤工学の最新の話題を把握し、それを解決するための地盤力学の課題、その他基礎学理の所在を理解する。 1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理について説明できる。 2. 沖積・洪積粘土地盤の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈ができる。 3. 中間土、特殊土、建設発生土の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。 4. 変形特性に基づく各種地盤材料の分類を行い、説明できる。
●パックグラウンドとなる科目	連続体力学特論、地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地盤解析学演習、地盤動力学演習
●授業内容	1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理 2. 沖積粘土地盤のせん断特性と長期沈下 3. 洪積粘土地盤のせん断特性と長期沈下 4. 泥岩のスレーリングとその対策 5. 不良土の改良技術、改良地盤材料の力学挙動の記述 6. 地盤材料学
●教科書	特になし
●参考書	特になし
●成績評価の方法	セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分	後期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	地盤環境学セミナー2D (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 2年後期
教員	浅岡 順 教授 中野 正樹 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	地盤工学の最新の話題を把握し、それを解決するための地盤力学の課題、その他基礎学理の所在を理解する。 1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理について説明できる。 2. 沖積・洪積粘土地盤の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈ができる。 3. 中間土、特殊土、建設発生土の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。 4. 変形特性に基づく各種地盤材料の分類を行い、説明できる。
●パックグラウンドとなる科目	連続体力学特論、地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地盤解析学演習、地盤動力学演習
●授業内容	1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理 2. 沖積粘土地盤のせん断特性と長期沈下 3. 洪積粘土地盤のせん断特性と長期沈下 4. 泥岩のスレーリングとその対策 5. 不良土の改良技術、改良地盤材料の力学挙動の記述 6. 地盤材料学
●教科書	特になし
●参考書	特になし
●成績評価の方法	セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。

<p>課程区分 後期課程 科目区分 主専攻科目 授業形態 セミナー</p> <p>地盤環境学セミナー2E (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 社会基盤工学分野 開講時期 3年前期</p> <p>教員 渋岡 順 教授 中野 正樹 教授</p> <p>備考</p> <p>●本講座の目的およびねらい 地盤工学の最新の話題を把握し、それを解決するための地盤力学の課題、その他基礎学理の所在を理解する。 1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理について説明できる。 2. 沖積・洪積粘土地盤の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。 3. 中間土、特殊土、建設発生土の力学挙動とその特徴を理解し、弾塑性力学に基づいて解釈できる。 4. 変形特性に基づく各種地盤材料の分類を行い、説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 地盤体力学特論、地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地盤解析学演習、地盤動力学演習</p> <p>●授業内容 1. 各種軟弱地盤改良工法の工法原理 2. 沖積粘土地盤のせん断特性と長期沈下 3. 洪積粘土地盤のせん断特性と長期沈下 4. 泥岩のスレーリングとその対策 5. 不良土の改良技術、改良地盤材料の力学挙動の記述 6. 地盤材料学</p> <p>●教科書 特になし</p> <p>●参考書 特になし</p> <p>●成績評価の方法 セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。</p>	<p>課程区分 後期課程 科目区分 主専攻科目 授業形態 セミナー</p> <p>国土防災安全工学セミナー2A (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 社会基盤工学分野 開講時期 1年前期</p> <p>教員 野田 利弘 准教授</p> <p>備考</p> <p>●本講座の目的およびねらい 最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策などを理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習</p> <p>●授業内容 1. 軟弱地盤力学の基礎 2. 地盤構造物の変形・安定性 3. 軟弱地盤における地盤・構造物の設計法 4. 地盤補強・改良工法の設計 5. 耐震工学の基礎 6. 地震入力 7. 地震応答解析及び耐震安全性評価</p> <p>●教科書 必要に応じて、プリント配布</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法 セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。</p>
--	--

<p>課程区分 後期課程 科目区分 主専攻科目 授業形態 セミナー</p> <p>国土防災安全工学セミナー2B (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 社会基盤工学分野 開講時期 1年後期</p> <p>教員 渋岡 義博 教授 野田 利弘 准教授</p> <p>備考</p> <p>●本講座の目的およびねらい 最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策などを理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習</p> <p>●授業内容 1. 軟弱地盤力学の基礎 2. 地盤材料の構成式 3. 地盤構造物の変形・安定性 4. 軟弱地盤における地盤構造物の設計法 5. 地盤補強・改良工法の設計 6. 各種土木構造物の耐震設計理論</p> <p>●教科書 必要に応じて、プリント配布</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法 セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。</p>	<p>課程区分 後期課程 科目区分 主専攻科目 授業形態 セミナー</p> <p>国土防災安全工学セミナー2C (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 社会基盤工学分野 開講時期 2年前期</p> <p>教員 野田 利弘 准教授</p> <p>備考</p> <p>●本講座の目的およびねらい 最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策などを理解する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習</p> <p>●授業内容 1. 軟弱地盤力学の基礎 2. 地盤構造物の変形・安定性 3. 軟弱地盤における地盤・構造物の設計法 4. 地盤補強・改良工法の設計 5. 耐震工学の基礎 6. 地震入力 7. 地震応答解析及び耐震安全性評価</p> <p>●教科書 必要に応じて、プリント配布</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法 セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。</p>
--	--

課程区分	後期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	国土防災安全工学セミナー2D (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	2年後期
教員	野田 利弘 準教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策などを理解する。	
●バックグラウンドとなる科目	
地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習	
●授業内容	
1.軟弱地盤力学の基礎 2.地盤構造物の変形・安定性 3.軟弱地盤における地盤・構造物の設計法 4.地盤補強・改良工法の設計 5.耐震工学の基礎 6.地震入力 7.地震応答解析及び耐震安全性評価	
●教科書	
必要に応じて、プリント配布	
●参考書	
●成績評価の方法	
セミナーでの発表およびディスカッション40%、課題レポートを60%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。	

課程区分	後期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
対象専攻・分野	国土防災安全工学セミナー2E (2 単位)
開講時期	社会基盤工学分野 3年前期
教員	野田 利弘 淳教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
	最新の話題を交えながら、地盤構造物の安全性に関する地盤力学・耐震工学の基礎事項を修得し、有効な設計原理・地盤対策工などを理解する。
●パックグラウンドとなる科目	
	地盤力学特論、地盤動力学特論、地盤工学特論、地震工学、地盤解析学演習、地盤動力学演習
●授業内容	
	1.軟弱地盤力学の基礎 2.地盤構造物の変形・安定性 3.軟弱地盤における地盤・構造物の設計法 4.地盤補強・改良工法の設計 5.耐震工学の基礎 6.地震入力 7.地震応答解析及び耐震安全性評価
●教科書	
	必要に応じて、プリント配布
●参考書	
●成績評価の方法	
	セミナーでの発表およびディスカッション40%，課題レポートを60%で評価し、100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分	後期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	地図環境保全学セミナー2A (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	1年前期
教員	片山 新太 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
	土壤地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、学習・討論を行う。
	達成目標
	受講者は地図環境保全学における重要課題である土壤地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等の中から、重要ないは課題と考えられる点を自分自身で見つけ理解し、説明できる能力を身につけることを目標とする。
●バックグラウンドとなる科目	
	環境地盤工学、衛生工学、土壤学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地図環境保全学セミナー1 A、1 B、1 C、1 D
●授業内容	
	受講者は、土壤地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、現在重要な課題を1つ取り上げて問題点を整理し発表を行い、討論を行う。その際、最新の論文を10篇以上読み、取り上げた課題に対する研究の最前線を整理して紹介する。
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
	論文の理解度、発表時における説明発表能力、討論能力の3点から評価する。100点満点で55点以上を合格とする。

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
	地図環境保全学セミナー2B (2 単位)
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1年後期
教員	片山 新太 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	
造成目標 受講者は地図環境保全学における重要課題である土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等の中から、重要なあるいは課題と考えられる点を選び、その点を取り扱う複数の異なる研究グループの成果を取り上げて、研究のアプローチを批判的に説明できる。	
●バックグラウンドとなる科目	
環境地盤工学、衛生工学、土壤学、水理学、微生物学、化学、生化学、数学、地図環境保全学セミナー1 A、1 B、1 C、1 D	
●授業内容	
受講者は、土壌地下水汚染の発生・移動メカニズムとそのモデル化、生物浄化技術と微生物の動態、廃棄物処理とアセスメント等について、現在重要な課題を1つ取り上げて問題点を整理し発表を行い、討論を行う。その際、最新の論文を10篇以上読み、取り上げた課題に対する研究の最前線を整理して紹介する。	
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	
論文の理解度、発表時における説明発表能力、討論能力の3点から評価する。100点満点で55点以上を合格とする。	

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>地図環境保全学セミナー2C (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 2年前期</p> <p>教員 片山 新太 教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>地図環境保全学セミナー2D (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 2年後期</p> <p>教員 片山 新太 教授</p>
<hr/>	
<hr/>	

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>地図環境保全学セミナー2B (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 3年前期</p> <p>教員 片山 新太 教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>社会基盤計画学セミナー2A (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 1年前期</p> <p>教員 中村 英樹 準教授 山本 俊行 準教授</p>
<hr/>	
<hr/>	

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 1年後期
教員	中村 英樹 准教授 山本 俊行 准教授
備考	

●本講座の目的およびねらい

都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。

●バックグラウンドとなる科目

人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会资本計画、都市・地域計画

●授業内容

交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。

●教科書

適宜指定

●参考書

●成績評価の方法

レポートと発表

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学分野 2年前期
教員	中村 英樹 准教授 山本 俊行 准教授
備考	

●本講座の目的およびねらい

都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。

●バックグラウンドとなる科目

人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会资本計画、都市・地域計画

●授業内容

交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。

●教科書

適宜指定

●参考書

●成績評価の方法

レポートと発表

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤工学セミナー 2年後期
教員	中村 英樹 准教授 山本 俊行 准教授
備考	

●本講座の目的およびねらい

都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。

●バックグラウンドとなる科目

人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会资本計画、都市・地域計画

●授業内容

交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。

●教科書

適宜指定

●参考書

●成績評価の方法

レポートと発表

課程区分 科目区分 授業形態	後期課程 主専攻科目 セミナー
対象専攻・分野 開講時期	社会基盤計画学セミナー 3年前期
教員	中村 英樹 准教授 山本 俊行 准教授
備考	

●本講座の目的およびねらい

都市・国土の空間計画、環境問題、土地問題に関する実態やその原因、およびニューフロンティアの開発について理解を深め、これら諸問題に対する研究方法を修得する。

●バックグラウンドとなる科目

人間活動と環境、確率と統計、空間計画論、交通論、社会资本計画、都市・地域計画

●授業内容

交通基盤整備や都市計画事業などの公共投資の計画に必要な方法論に関する先進の外書を講読する。

●教科書

適宜指定

●参考書

●成績評価の方法

レポートと発表

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>社会基盤設計学セミナー2A (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 1年前期</p> <p>教員</p> <p>北川 徹哉 準教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>社会基盤設計学セミナー2B (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 1年後期</p> <p>教員</p> <p>北川 徹哉 準教授</p>
備考	

<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>性能照査型設計と環境負荷最少の社会基盤施設の整備手法について、以下を目標に考究する。 1. 社会基盤構造物の性能照査型設計への近年の傾向を説明できる。 2. 社会基盤構造物の性能照査型設計の構造工学的な背景を説明できる。 3. 社会基盤 整備と環境負荷との関連について説明できる。 4. 社会基盤整備の環境負荷最少化へのアプローチ方法を説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容</p> <p>社会基盤の性能照査型設計と環境負荷最少に関する輪講およびディスカッション</p> <p>●教科書</p> <p>教員が指定した文献を用いる。</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>ディスカッションの状況およびレポートの採点結果により評価し、55%以上を合格とする。 履修条件・注意事項等：十分な予習を行うこと。 質問への対応：セミナー時に応する。</p>	<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>性能照査型設計と環境負荷最少の社会基盤施設の整備手法について、以下を目標に考究する。 1. 社会基盤構造物の性能照査型設計への近年の傾向を説明できる。 2. 社会基盤構造物の性能照査型設計の構造工学的な背景を説明できる。 3. 社会基盤 整備と環境負荷との関連について説明できる。 4. 社会基盤整備の環境負荷最少化へのアプローチ方法を説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容</p> <p>社会基盤の性能照査型設計と環境負荷最少に関する輪講およびディスカッション</p> <p>●教科書</p> <p>教員が指定した文献を用いる。</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>ディスカッションの状況およびレポートの採点結果により評価し、55%以上を合格とする。 履修条件・注意事項等：十分な予習を行うこと。 質問への対応：セミナー時に応する。</p>
--	--

課程区分	後期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	社会基盤設計学セミナー2B (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	3年前期
教員	北川 徹哉 准教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	性能照査型設計と環境負荷最少の社会基盤施設の整備手法について、以下を目標に考究する。 1. 社会基盤構造物の性能照査型設計への近年の傾向を説明できる。 2. 社会基盤構造物の性能照査型設計の構造工学的な背景を説明できる。 3. 社会基盤 整備と環境負荷との関連について説明できる。 4. 社会基盤整備の環境負荷最小化へのアプローチ方法を説明できる。
●バックグラウンドとなる科目	
●授業内容	社会基盤の性能照査型設計と環境負荷最少に関する輪講およびディスカッション
●教科書	教員が指定した文献を用いる。
●参考書	
●成績評価の方法	ディスカッションの状況およびレポートの採点結果により評価し、55%以上を合格とする。 履修条件・注意事項等：十分な予習を行うこと。 質問への対応：セミナー時に対応する。

課程区分	後期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	社会基盤維持管理学セミナー2A (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	1年前期
教員	館石 和雄 教授 山田 健太郎 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の考え方、安全性の評価手法などに関して国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げセミナーを行う。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総括的な機能設計、機能維持手法のあり方にに関して議論する。
●バックグラウンドとなる科目	橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
●授業内容	主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道、などの、ライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	出席と授業中の態度

課程区分	後期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	社会基盤維持管理学セミナー2B (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	1年後期
教員	館石 和雄 教授 山田 健太郎 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の考え方、安全性の評価手法などに関して国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げセミナーを行う。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総括的な機能設計、機能維持手法のあり方にに関して議論する。
●バックグラウンドとなる科目	橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
●授業内容	主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道、などの、ライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	出席と授業中の態度

課程区分	後期課程
科目区分	主専攻科目
授業形態	セミナー
	社会基盤維持管理学セミナー2C (2 単位)
対象専攻・分野	社会基盤工学分野
開講時期	2年前期
教員	館石 和雄 教授 山田 健太郎 教授
備考	
●本講座の目的およびねらい	地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の考え方、安全性の評価手法などに関して国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げセミナーを行う。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総括的な機能設計、機能維持手法のあり方にに関して議論する。
●バックグラウンドとなる科目	橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識
●授業内容	主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道、などの、ライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。
●教科書	
●参考書	
●成績評価の方法	出席と授業中の態度

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>社会基盤維持管理学セミナー2D (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 2年後期</p> <p>教員</p> <p>笠石 和雄 教授 山田 健太郎 教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 主専攻科目 セミナー</p> <p>社会基盤維持管理学セミナー2E (2 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>社会基盤工学分野 3年前期</p> <p>教員</p> <p>笠石 和雄 教授 山田 健太郎 教授</p>
<p>備考</p> <p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>地域、都市、環境を構成する基盤施設、ライフラインの設計の考え方、安全性の評価手法などに関する国内外の事例や諸外国の設計指針等を関連文献などから具体的に取り上げセミナーを行う。また、諸外国と国内での社会基盤施設の設計法、安全性評価手法の共通点、相違点を比較し、設計、建設、保全を含んだ総括的な機能設計、機能維持手法のあり方に関して議論する。</p> <p>●パックグラウンドとなる科目</p> <p>橋工学、構造力学、鋼構造工学、設計法の基礎知識</p> <p>●授業内容</p> <p>主に都市の基盤施設、たとえば橋梁、上下水道、などの、ライフラインの整備の歴史、設計、施工、維持・管理などの関連論文を参考に、輪講形式でセミナーを行う。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>出席と授業中の態度</p>	

<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 総合工学科目 実習</p> <p>実験指導体験実習 1 (1 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期</p> <p>教員</p> <p>松村 年郎 教授</p>	<p>課程区分 科目区分 授業形態</p> <p>後期課程 総合工学科目 実習</p> <p>実験指導体験実習 2 (1 単位)</p> <p>対象専攻・分野 開講時期</p> <p>全専攻・分野共通 1年前期後期 2年前期後期</p> <p>教員</p> <p>山根 隆 教授 田淵 雅夫 准教授</p>
<p>備考</p> <p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>高度総合工学創造実験において、企業からのDirecting Professorと学部及び前期課程の学生の間に立ち、指導の体験を通して、後期課程の学生の教育と研究及び指導者としての養成に役立てる。</p> <p>●パックグラウンドとなる科目</p> <p>特になし。</p> <p>●授業内容</p> <p>高度総合工学創造実験において、実験結果の解釈、とりまとめ、発表・展示の指導をDirecting Professorの指導の元におこなう。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●成績評価の方法</p> <p>とりまとめと指導性、面接</p>	